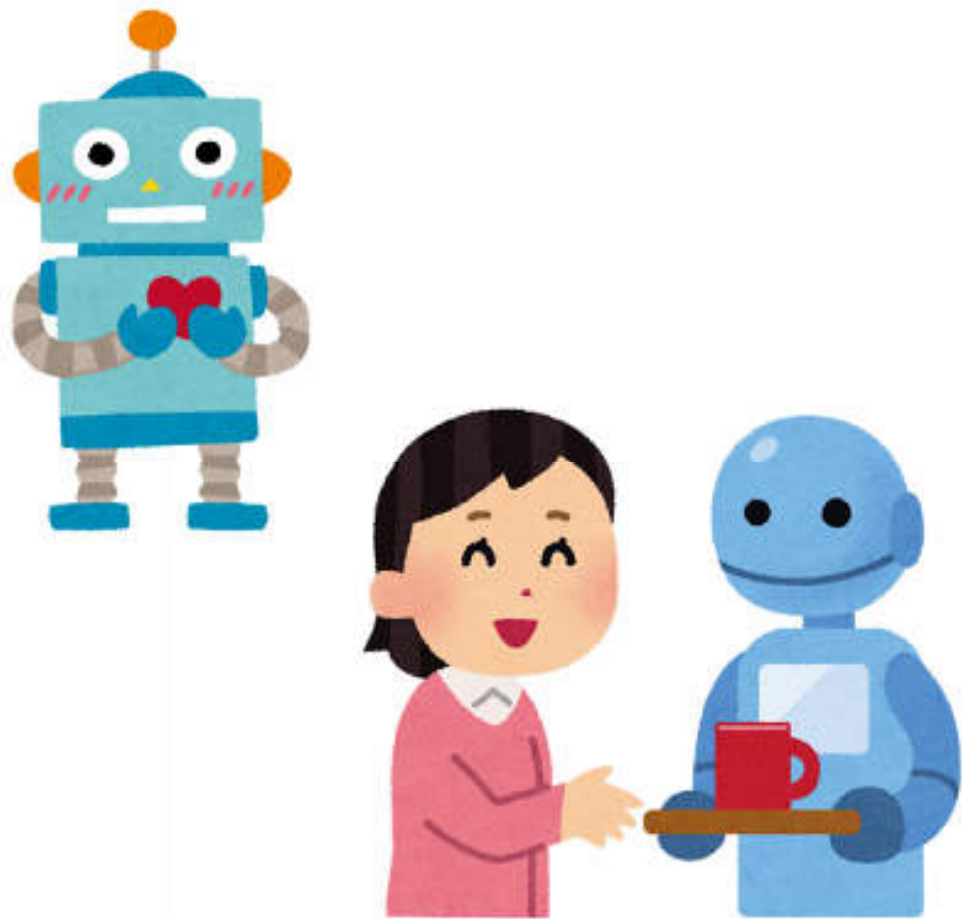


令和5年度  
介護ロボット等を活用した調査研究  
プロジェクト 事業報告書



一般社団法人埼玉県老人福祉施設協議会  
介護ロボット等を活用した調査研究プロジェクトチーム



# 目次

- ①会長挨拶 .....1
- ②事業の目的・実施概要 .....2
- ③介護ロボット導入の実態・意向および  
ニーズについての調査 ..... 6
- ④情報発信テーマ .....36
  - ・食事介助ロボット調査研究チーム
  - ・移乗介護ロボット調査研究チーム
  - ・見守り介護ロボット調査研究チーム
  - ・排泄介護ロボット調査研究チーム
  - ・コミュニケーション介護ロボット調査研究チーム
- ⑤本調査研究のまとめと課題・今後に向けて .....87

## はじめに

介護業界において、人材不足が深刻化しており、ICTや介護ロボットの活用が求められています。

ICTの導入により、人手が必要な作業を効率的に行い、本質的なサービスに集中できる環境を整えることが必要です。また、介護ロボットは利用者の自立支援や介護者の負担軽減に役立つ機器であり、様々な利用方法があります。一方で、介護ロボットの普及にはいくつかの課題があります。コストや利用者・家族の抵抗感、スタッフのデジタル慣れなどが挙げられます。これらの課題を克服するために、利用者やスタッフの安心感を高める取り組みが必要です。

介護ロボットを導入する際には、具体的なニーズに合った適切なタイプを選定することが重要であると考え、施設ごとに異なる課題や利用者の状況を考慮し、最適なロボットを選ぶことで効果的な活用が期待できると考えております。

プロジェクトチームでは、介護ロボットの使用により介護従事者の負担の軽減・生産性の向上を図るとともに、介護従事者の確保及び定着に資するよう調査・研究を重ね、ご利用者様により良いサービスが提供できるよう努力して参ります。



令和6年3月  
一般社団法人埼玉県老人福祉施設協議会  
会長 遠井 美智子

## ②事業の目的

### ◆本調査研究の目的

介護ロボット導入の実態・意向およびニーズについて調査・研究を実施する。

### ◆介護ロボット等を活用した調査研究プロジェクトチームについて

プロジェクトチームは、21世紀委員会構成員、本会会員施設において、介護ロボットを活用又は導入を検討している施設の委員1名、その他調査研究において、会長が必要と認める者19名で構成されております。

No		氏名	施設名
1	担当副会長	中重 文美	ひまわり
2	委員長	戸嶋 靖浩	良宝園
3	副委員長	濱野 賢一	康寿園
4		神谷 敏弘	晴和苑
5		戸山 文洋	見沼緑水苑
6		堀 弘尚	ベルホーム
7		青木 良雄	はるな苑
8		井橋 興蔵	キャンベルホーム
9		荒瀬 裕一	見沼緑水苑
10		中嶋 照夫	さくらぎ苑
11		藤野 陽介	太行路
12		出雲 英章	まきば園
13		加藤 綾	ひらすかの郷
14		市川 将史	かがやき
15		堀口 英幸	大浜ケアセンター
16		酒本 隆敬	杏樹苑爽風館
17		田中 孝彦	杏樹苑
18		大嶋 徹	悠う湯ホーム
19		杉浦 佑介	ご福あげお

本調査研究には、埼玉県社会福祉協議会 介護ロボットアドバイザー大内英之氏にご助言をいただきました。ありがとうございました。

チーム会議は、ウェブ会議を中心に活動して参りました。



## ◆調査方法

394の会員施設にアンケートを発信し、127の会員施設様から回答を頂きました。

## ◆調査スケジュール

時期	調査スケジュール
令和4年度 令和4年6月	・「現場が欲しい介護ロボット」の調査研究事業開始
7月～8月	・調査研究内容の具体化
9月～11月	・調査内容の情報収集、アンケート案についての意見交換 アンケート案作成
12月	・アンケート内容の決定
令和5年度 令和5年2月	・「現場が欲しい介護ロボット」アンケート調査実施 (アンケート期間2/20-3/6)
6月	・「現場が欲しい介護ロボット」アンケート調査結果の集計・分析
9～12月	・情報発信テーマの設定・作成 ・情報発信テーマ発表
令和6年1月	・情報発信テーマ報告
3月	・活動結果取りまとめ、報告書作成

## ◆チーム会議の開催時期

時期	会議
令和4年度 令和4年6月20日	・事前打ち合わせ(活動内容について)
7月5日	第1回
7月27日	・介護ロボット等を活用した調査研究活動内容・方針について ・事前打ち合わせ(活動内容について)
9月7日	第2回 ・今後の活動内容・スケジュール ・チームでの打ち合わせ(アンケート内容等)
10月11日	プロジェクトチーム勉強会 ～介護ロボットの知識を再確認、開発支援活動へつなげよう～ 第一部「介護ロボットについて」 第二部「百聞は一見にしかず！介護ロボットを実際に確認しましょう」
12月7日	第3回 ・アンケート内容について(チーム別) ・令和5年度事業計画について
令和5年2月8日	第4回 ・アンケート内容について ・令和5年度事業計画について
令和5年度 令和5年5月18日	令和5年度ロボット事業の進め方
6月7日	第1回 ・アンケート分析結果の報告 ・担当アンケート結果確認と「情報発信テーマ」の決定について(チーム別) ・今後の進め方
9月6日	第2回 ・食事介助場面における「情報発信テーマ」の発表 ・「情報発信テーマ」のまとめ方の協議(チーム別) ・介護ロボットの活用施設の導入事例等を含んだ研修会の企画について ・今後のスケジュール
令和5年12月6日	第3回 ・「情報発信テーマ」のまとめ発表 ・調査研究報告書配布先(業界団体関係分)の報告 ・介護ロボット活用施設の導入事例を含んだ研修会について ・次年度事業方針・計画について ・今後のスケジュール
令和6年3月6日	第4回 ・調査研究報告書の掲載方法・配布案について ・令和5年度事業報告(評価)・令和6年度事業計画について ・研修会振り返り

## 介護ロボットとは

### 1. ロボットの定義とは、

- 情報を感知(センサー系)
- 判断し(知能・制御系)
- 動作する(駆動系)

この3つの要素技術を有する、知能化した機械システム。

2. ロボット技術が応用され利用者の自立支援や介護者の負担の軽減に役立つ介護機器を介護ロボットと呼んでいる。

### 《参考重点分野の概要》

#### (1) 移乗介助

○ロボット技術を用いて介助者のパワーアシストを行う装着型の機器

○ロボット技術を用いて介助者による抱え上げ動作のパワーアシストを行う非装着型の機器

#### (2) 移動支援

○高齢者等の外出をサポートし、荷物等を安全に運搬できるロボット技術を用いた歩行支援機器

○高齢者等の屋内移動や立ち座りをサポートし、特にトイレへの往復やトイレ内での姿勢保持を支援するロボット技術を用いた歩行支援機器

○高齢者等の外出等をサポートし、転倒予防や歩行等を補助するロボット技術を用いた装着型の移動支援機器

#### (3) 排泄支援

○排泄物の処理にロボット技術を用いた設置位置の調整可能なトイレ

○ロボット技術を用いて排泄を予測し、的確なタイミングでトイレへ誘導する機器

○ロボット技術を用いてトイレ内での下衣の着脱等の排泄の一連の動作を支援する機器

#### (4) 見守り・コミュニケーション

○介護施設において使用する、センサーや外部通信機能を備えたロボット技術を用いた機器のプラットフォーム

○在宅介護において使用する、転倒検知センサーや外部通信機能を備えたロボット技術を用いた機器のプラットフォーム

○高齢者等とのコミュニケーションにロボット技術を用いた生活支援機器

#### (5) 入浴支援

○ロボット技術を用いて浴槽に出入りする際の一連の動作を支援する機器

#### (6) 介護業務支援

○ロボット技術を用いて、見守り、移動支援、排泄支援をはじめとする介護業務に伴う情報を収集・蓄積し、それを基に、高齢者等の必要な支援に活用することを可能とする機器

厚生労働省：介護ロボットの開発・普及の促進より抜粋

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000209634.html>

## 介護ロボット導入の実態・意向およびニーズ調査 アンケートの実施

プロジェクトの調査・研究の一環として、現場が必要としているロボットの調査をさせていただきました。アンケートにご協力をいただきありがとうございました。

- 1 調査概要 介護ロボット導入の実態・意向およびニーズ調査
- 2 実施期間 令和5年2月20日～3月6日
- 3 回答:施設 127施設





埼老協第185号  
令和5年2月17日

一般社団法人埼玉県老人福祉施設協議会  
各会員施設の長様

一般社団法人埼玉県老人福祉施設協議会  
会長 遠井 美智子  
介護ロボット等を活用した調査研究プロジェクト  
委員長 戸嶋 靖浩

### 介護ロボット導入の実態・意向およびニーズ調査協力へのお願い（依頼）

本会事業の推進については、日頃より多大な御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年度介護ロボット等を活用した調査研究プロジェクトでは、調査研究を進めていく中で、介護ロボットによって、介護業務の負担軽減を図る期待がある一方で、ロボットによる介護に抵抗感を抱く方も一定数存在し、普及していない現状が垣間見えました。

そこで今年度は、「現場が欲しい介護ロボット」の調査研究を実施していくこととなりました。会員の皆様には、「現場での困りごと」「介護ロボットに期待するサポート機能」のお声を多くきかせていただき、今後の活動資料とさせていただきたいと考えております。何卒アンケート調査にご協力頂きますようお願いいたします。

### 記

- 1 調査概要 介護ロボット導入の実態・意向およびニーズにおける会員施設の状況調査
- 2 調査方法 グーグルアンケートフォーム  
※Google フォームで回答する際にアカウントログインせずに回答することができます。  
また Google アカウントを持っていない方もアンケートにご回答いただけます。
- 3 回答方法・回答期限  
**3月6日（月）までに、以下のアンケートフォームから回答をお願いいたします。**  
※埼玉県老人福祉施設協議会会員用ホームページからもご回答いただけます。

アンケートフォームURL⇒<https://forms.gle/fEynFz4wXK3bYwjN9>



QRコードからもご回答いただけます

- 4 その他  
調査票の記入内容について確認のご連絡を差し上げることがございますのでご了承ください。アンケートフォームでの回答が難しい場合には、事務局へご連絡ください。

(一社)埼玉県老人福祉施設協議会事務局  
〒330-0075 さいたま市浦和区針ヶ谷 4-2-65  
Tel : 048-762-3934 Fax : 048-762-3964  
E-mail : [roushikyo@saitama-rsk.or.jp](mailto:roushikyo@saitama-rsk.or.jp)

## ■介護ロボット等を活用した調査研究プロジェクトアンケート集計分析・報告

### I 基本集計・分析

#### I-1 アンケート発信総数と回答数、回答率

・394の会員施設にアンケートを発信し、127の会員施設様から回答を頂きました。  
回答率は32.23%です。

発信数	総数	内 訳									
		さいたま	県央	東部	西部	南部	南西部	北部	川越比企	利根	秩父
発信数	394	38	32	44	46	34	30	51	47	55	17
回答数	127	12	8	17	17	8	9	13	15	18	10
回答率	32.23%	31.58%	25.00%	38.64%	36.96%	23.53%	30.00%	25.49%	31.91%	32.73%	58.82%

\*なお各圏域に所属する市町村は以下のとおりです。

圏域名	所属する市町村
さいたま	さいたま市
県央	上尾市、鴻巣市、桶川市、北本市、伊奈町
東部	草加市、八潮市、春日部市、越谷市、三郷市、吉川市、松伏町
西部	所沢市、狭山市、入間市、飯能市、日高市
南部	川口市、蕨市、戸田市
南西部	朝霞市、志木市、和光市、新座市、富士見市、ふじみ野市、三芳町
北部	熊谷市、深谷市、本庄市、寄居町、美里町、神川町、上里町
川越比企	川越市、坂戸市、鶴ヶ島市、東松山市、滑川町、嵐山町、小川町、川島町、吉見町、ときがわ町、毛呂山町、越生町、鳩山町、東秩父村
利根	久喜市、白岡市、幸手市、行田市、羽生市、加須市、蓮田市、宮代町、杉戸町
秩父	秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町

#### I-2 回答した事業所の種別

・介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）が約9割を占めます。

事業種別	特養	養護	軽費	ケアハウス	GH	デイ	小規模多機能	合計
回答数	114	5	1	4	1	1	1	127
構成比	89.76%	3.94%	0.79%	3.15%	0.79%	0.79%	0.79%	100%

#### I-3 回答した事業所の定員規模分布（小規模多機能については登録人数を採用）

・最多分布は「81人から120人」で約半数を占めます。

規模区分	50人以下	51人-80人	81人-120人	121人-150人	151人以上	
事業所数	19	33	64	9	2	127
構成比	14.96%	25.98%	50.39%	7.09%	1.57%	100%

#### I-4 回答した事業所の開設からの経過年数の分布

・開設後「16年から30年まで」の事業所で半数近い事業所となります。

区分	5年以下	6年-10年	11年-15年	16年-20年	21年-25年	26年-30年	31年-35年	36年-40年	41年-45年	45年以上	
事業所数	10	24	8	20	13	28	5	6	5	8	127
構成比	7.87%	18.90%	6.30%	15.75%	10.24%	22.05%	3.94%	4.72%	3.94%	6.30%	100%

### I-5 回答した事業所の施設タイプ

・従来型、ユニット型がほぼ同じになっています。

施設タイプ	従来型	ユニット型	混合型	その他*	
事業所数	53	51	18	5	127
構成比	41.73%	40.16%	14.17%	3.94%	100%

\*その他⇒ケアハウスにおける個室などが該当

### I-6 事業所内の通信環境について

・「電波の入りづらい場所がある」まで含めると8割を超える事業所が通信環境の整備を行っています。

選択項目	事業所数	比率
WIFIも含めて環境整備済 (=WIFI環境整備済)	57	44.88%
電波の入りづらい場所がある (=部分的改修要)	50	39.37%
全体的な環境整備が必要と考えている (=全体的整備要)	20	15.75%
合計	127	100%

#### I-6-① (圏域別) 事業所内の通信環境について

・県央、西部、秩父圏域で「WIFI環境整備済」と回答する事業所が多くありました。

区分/圏域	さいたま	県央	東部	西部	南部	南西部	北部	川越比企	利根	秩父
WIFI環境整備済	3	6	7	10	4	3	5	7	7	5
部分的改修要	8	2	7	5	3	2	8	6	5	4
全体的整備要	1	0	3	2	1	4	0	2	6	1

### I-7 介護ロボット導入に際して中心となってくれる(なっていた)職員の有無

・何名かいると回答した事業所が半数近い数値となりましたが、「1名」、「自分」、「誰もいない」も合計すると半数近い数値となります。

選択項目	事業所数	比率
何名かいる	64	50.39%
1名いる	18	14.17%
自分が行うことになる	25	19.69%
誰もいない	20	15.75%
合計	127	100%

### I-8 介護ロボットの導入状況

・「導入済」であると回答した事業所が4割を超えます。

選択項目	事業所数	比率
導入済	58	45.67%
これから導入予定	25	19.69%
導入予定なし	44	34.65%
合計	127	100%

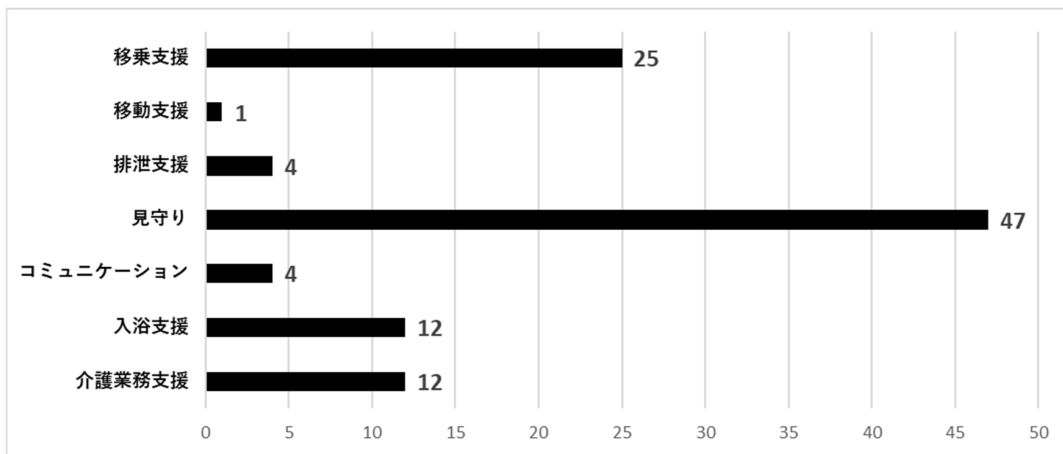
#### I-8-① (圏域別) 介護ロボットの導入状況について

・西部および北部で「導入済」と回答する事業所が多くありました。

区分/圏域	さいたま	県央	東部	西部	南部	南西部	北部	川越比企	利根	秩父
導入済	5	7	5	11	1	2	9	6	7	5
これから導入予定	2	1	4	3	4	1	3	5	2	0
導入予定なし	5	0	8	3	3	6	1	4	9	5

### I-9 導入した介護ロボットの種別(複数回答可)

・導入した介護ロボット種別として「見守り支援機器」と回答する事業所が多くあります。



### I-10 「導入済」と回答した事業所が介護ロボット導入により最も効果を感じた部分

・7割を超える事業所が導入による業務または介護職員の負担軽減を感じています。

選択項目	事業所数	比率
介護職員の身体的負担の軽減	20	34.48%
業務負担の軽減	24	41.38%
利用者へのサービス向上	12	20.69%
効果は感じない	2	3.45%
合計	58	100%

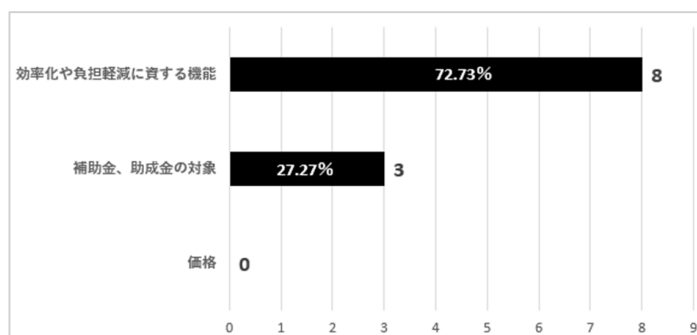
### I-11 「これから導入予定」「導入の予定なし」と回答した事業所における今後の介護ロボット導入への進め方

・介護ロボットの導入をすすめていくことに関して約半数の事業所が「どちらともいえない」または「導入には消極的」とする回答をしています。

選択項目	事業所数	比率
積極的に推進する	11	15.94%
前向きに検討する	24	34.78%
どちらともいえない	27	39.13%
導入には消極的	7	10.14%
合計	69	100%

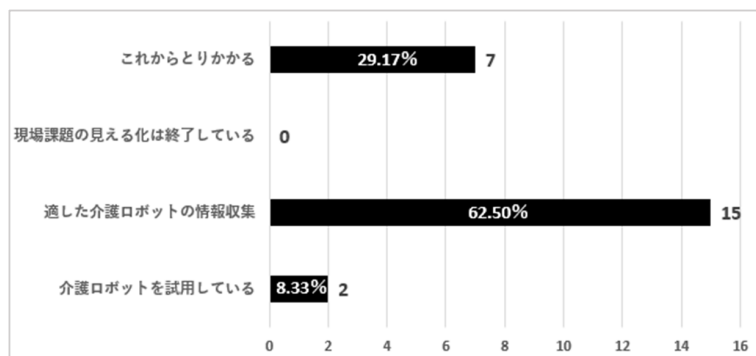
#### I-11-① I-11で「積極的に推進する」と回答した事業所が導入にあたり、重要視する項目

・7割の事業所が「効率化や負担軽減に資する機能」を重要視すると回答しています。



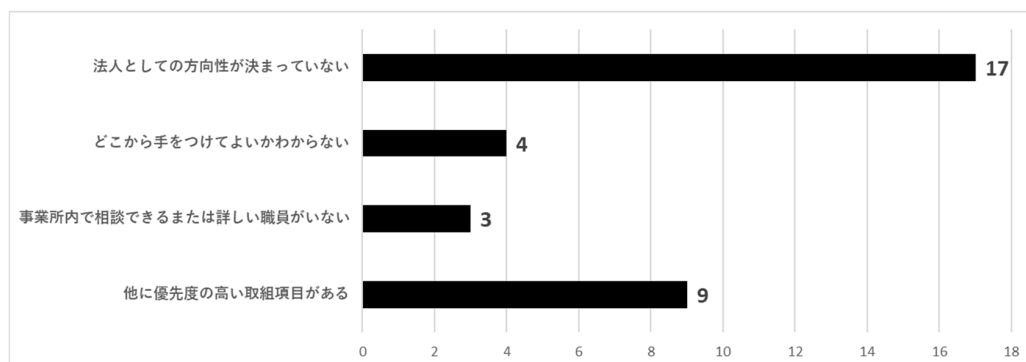
#### I-11-② I-11で「前向きに検討する」と回答した事業所の導入に向けた準備状況

・7割の事業所が介護ロボットの情報収集または試用を行っています。反面、現場課題の見える化は終了していると回答する事業所がありませんでした。現場課題の見える化のステップを行っていない事業所もある可能性を感じます。



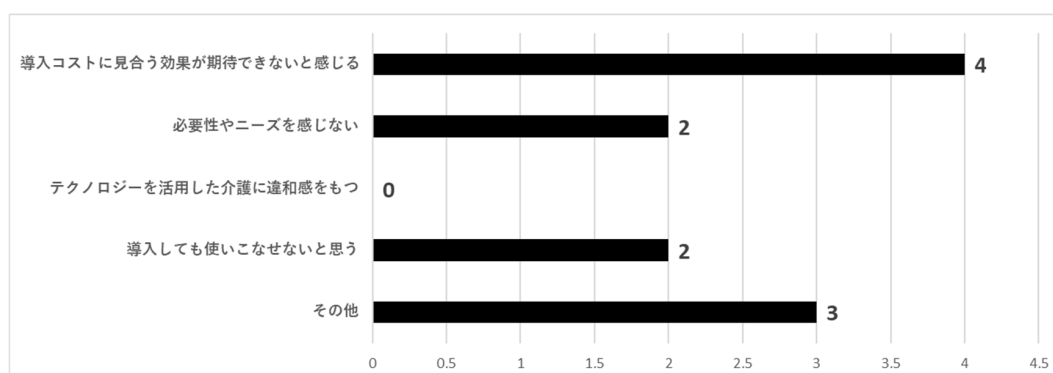
I-11-③ I-11で「どちらともいえない」と回答した事業所が前向きに検討すると回答できない理由（複数回答可）

・「法人としての方向性が決まっていない」と回答する事業所が多くありました。また「他に優先度の高い取組項目がある」とした項目で、優先度の高い取組項目の記入欄に「施設修繕」「経年劣化に伴う設備修繕や更新」「ケアハウスには不要」「介護ロボットについて理解していない」「金銭面で厳しい」という回答がありました。



I-11-④ I-11で「導入には消極的」と回答した事業所の消極的な理由について（複数回答可）

・「テクノロジーを活用した介護に違和感をもつ」という回答が無かったことは、介護現場でテクノロジーを活用するという意識は定着しつつあるものと考えます。その他の項目における記述は「指定管理での運営なので長期的な計画が立てられない」「法人、事業所としての方向性が決まっていない」「いくつか導入したが現在利用していない」という回答がありました。

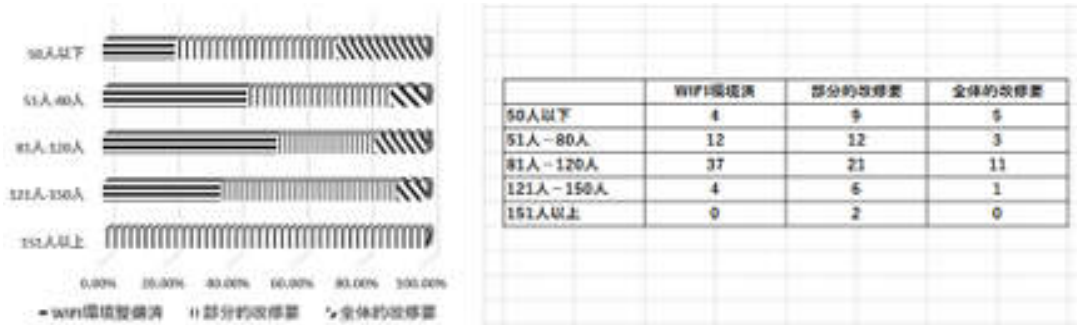


## II 基本集計の組合せによる分析

### II-1 通信環境整備状況と他の集計項目の関係性

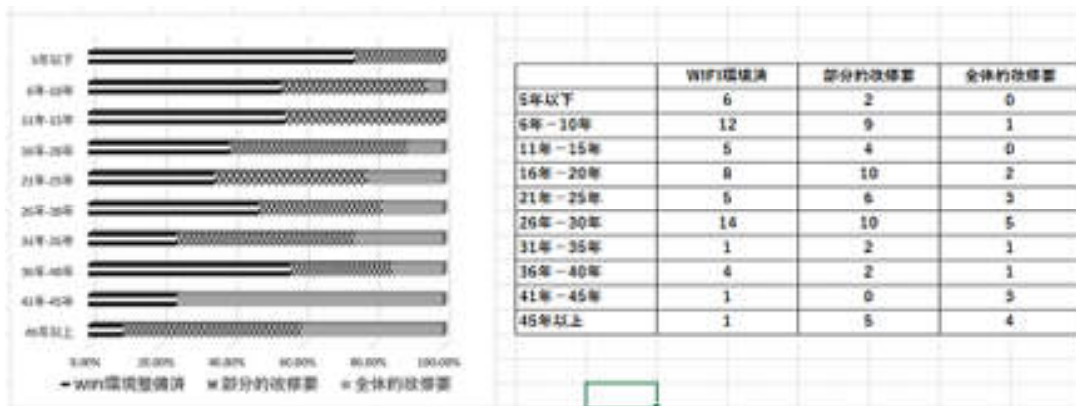
#### II-1-1 ① 通信環境整備状況と定員規模

・定員が「51人以上80人以下」および「81人以上120名以下」の分類は「WIFI環境が整備済」と回答する事業所が半数近い数値となりますが、「50人以下」および「121人以上150人以下」および「151人以上」においては“WIFI環境が整っていない”と回答する事業所が多数を占めます。



#### II-1-1 ② 通信環境整備状況と開設経過年数

・開設年数が15年以下の事業所は半数程度が「WIFI環境整備済」と回答しています。また開設年数が「26年から30年」の事業所においても「WIFI環境整備済」と回答する事業所が半数以上を占めています。設備修繕工事の際に一緒にWIFI環境の整備を行った事業所が多くあったことが考えられます。反対に41年以上経過した事業所においては全体的または部分的な改修の必要性を感じている事業所が多数を占めます。



#### II-1-1 ③ 通信環境整備状況と介護ロボット導入に際し中心となってくれる職員の有無

・「何名かはいる」という回答が多数を占めますが「自分が行う」または「誰もいない」と回答する事業者が各環境整備状況において3割から4割あります。

※前頁からの続き

II-1-③ 通信環境整備状況と介護ロボット導入に際し中心となってくれる職員の有無

	何名かいる	1名いる	自分が行う	誰もいない	合計
WIFI環境整備済	31	6	13	7	57
(構成比)	54.39%	10.53%	22.81%	12.28%	100%
部分的改修要	26	7	9	8	50
(構成比)	52.00%	14.00%	18.00%	16.00%	100%
全体的改修要	7	5	3	5	20
(構成比)	35.00%	25.00%	15.00%	25.00%	100%

II-1-③-A 上記の集計において「自分が行う」、「誰もいない」と回答した事業所における介護ロボット導入状況または今後の方向性について

・介護ロボットの「導入の予定なし」と回答する事業所が半数程度あります。また「誰もいない」と回答した事業所の多くは「導入予定なし」という回答をしています。必要性は認識していても“中心となる人物”がいなくて推進することができないことも考えられます。

整備状況	回答	回答数	内訳		
			導入済	これから導入予定	導入予定なし
WIFI環境整備済	自分が行う	13	6	3	4
	誰もいない	7	1	2	4
部分的改修要	自分が行う	9	2	2	5
	誰もいない	8	0	2	6
全体的改修要	自分が行う	3	1	1	1
	誰もいない	5	0	1	4
合計		45	10	11	24

II-2 介護ロボットの導入種別と他の集計項目の関係性

II-2-① 導入した介護ロボットの種別と通信環境の整備状況について

・通信環境整備の状況により、介護ロボットの導入は異なってきます。通信環境が整備されている事業所では通信環境を利用した見守り機器に加えて通信環境との関係性が薄い介護ロボット（移乗介助支援、入浴支援など）の導入比率も高くなります。反面、通信環境の整っていない事業所は導入している介護ロボットも限られています。

	移乗支援	移動支援	排泄支援	見守り	コミュニケーション	入浴支援	介護業務支援
WIFI環境整備済	18	1	4	28	4	6	9
部分的改修要	7	0	0	16	0	6	3
全体的改修要	0	0	0	3	0	0	0
合計	25	1	4	47	4	12	12



II-2-② 圏域別介護ロボット導入状況

・全ての圏域において介護ロボットを導入している事業所があります。「見守り」は全ての圏域において導入している事業所があります。西部は「移動支援」以外の介護ロボットは圏域内の事業所が導入をしております。

\*一つの事業所で複数の介護ロボットを導入している場合もあります。

	移乗支援	移動支援	排泄支援	見守り	コミュニケーション	入浴支援	介護業務支援	圏域合計
さいたま市	2	0	0	5	0	0	1	8
県央	4	1	0	6	1	1	2	15
東部	0	0	0	5	0	2	1	8
西部	8	0	3	6	1	4	2	24
南部	0	0	0	1	0	1	0	2
南西部	0	0	0	2	0	1	0	3
北部	5	0	0	7	0	0	1	13
川越比企	1	0	0	6	1	0	2	10
利根	4	0	1	4	0	3	3	15
秩父	1	0	0	4	1	0	0	6

II-3-③ 介護ロボット導入施設と開設経過年数

・開設経過年数が「6年-10年」および「26年-30年」の枠で多くの介護ロボットが導入されています。この数値的特徴は通信環境整備の集計と同じです。「26年-30年」が多いのは大規模修繕を施す時期であることから修繕時に通信環境と同時に介護ロボットも導入した事業所が多かったことが想定されます。

		5年以下	6年-10年	11年-15年	16年-20年	21年-25年	26年-30年	31年-35年	36年-40年	41年-45年	45年以上	合計
全体		5	14	3	7	4	14	0	6	3	2	58
全体の中の構成比		8.62%	24.14%	5.17%	12.07%	6.90%	24.14%	0.00%	10.34%	5.17%	3.45%	100%
内訳	さいたま市			1	1				1	1	1	5
	県央	2	1		2		2					7
	東部	1	1			2	1					5
	西部		3		2	1	2		3			11
	南部			1								1
	南西部	1					1					2
	北部		4	1		1	2				1	9
	川越比企		2				3		1			6
	利根	1	1		1		1		1	2		7
秩父		2		1		2					5	

\* 回答事業者総数における経過年数分布と介護ロボット導入事業所の比率

区分	5年以下	6年-10年	11年-15年	16年-20年	21年-25年	26年-30年	31年-35年	36年-40年	41年-45年	45年以上	
回答事業所数	10	24	8	20	13	28	5	6	5	8	127
導入事業者数	5	14	3	7	4	14	0	6	3	2	58
比率	50.00%	58.33%	37.50%	35.00%	30.77%	50.00%	0.00%	100.00%	60.00%	25.00%	45.67%

(再掲) 通信環境整備状況と開設経過年数



II-2-④ 介護ロボット導入施設の定員規模分布

・定員規模が50人以下の事業所において介護ロボットを導入している事業所の割合が他の定員規模と比較して低い割合になっています。

		50人以下	51人-80人	81人-120人	121人-150人	151人以上	合計
全体		5	36	31	4	0	58
全体の中の構成比		8.62%	27.89%	53.45%	10.34%	0.00%	100%
内訳	さいたま市	1	1	2	1		5
	県央		1	6			7
	東部		1	4			5
	西部		2	6	3		11
	南部	1					1
	南西部			1	1		2
	北部	1	5	3			9
	川越比企		2	4			6
	利根		2	4	1		7
秩父	2	2	1			5	

\* 回答事業者総数における定員規模分布と介護ロボット導入事業所の比率

区分	50人以下	51人-80人	81人-120人	121人-150人	151人以上	
回答事業所数	19	33	64	9	2	127
導入事業者数	5	16	31	6	0	58
比率	26.32%	48.48%	48.44%	66.67%	0.00%	45.67%

【I基本集計・分析およびII基本集計の組合せによる分析のまとめ】

- ・ 8割を超える事業所が通信環境の整備を行っています。
- ・ 介護ロボット導入に際して中心となって推進してくれる職員の有無に関して「1名」、「自分」、「誰もいない」の回答が半数程度ありました。
- ・ 介護ロボット「導入済」であると回答した事業所が4割。多数が見守り支援機器でした。
- ・ 「テクノロジーを活用した介護に違和感をもつ」という回答はありませんでした。
- ・ 開設経過年数が「26年から30年」の事業所において「WIFI環境整備済」と回答する事業所が半数以上を占めます。設備修繕工事の際に一緒にWIFI環境の整備を行った事業所が多くあったと考えられます。

- ・介護ロボット導入に際して中心となって推進してくれる職員の有無に関して「1名」、「自分」、「誰もいない」の回答した事業所の半数が、介護ロボットの「導入の予定なし」と回答しています。また「誰もいない」と回答した事業所の多くは「導入予定なし」という回答でした。

必要性は認識していても“中心となる人物”がいなくて推進することができないことも考えられます。

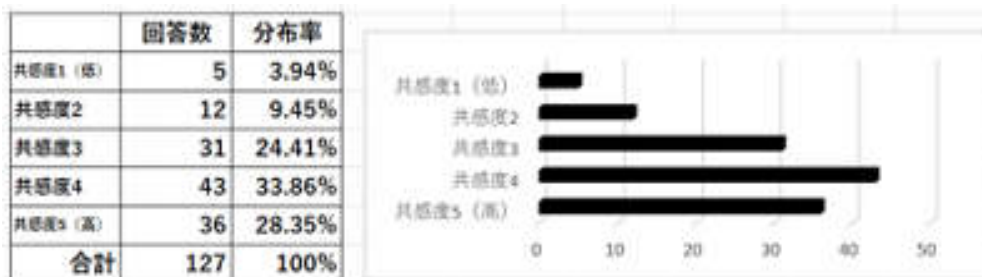
- ・介護ロボット導入施設と開設経過年数において開設経過年数が「6年－10年」および「26年－30年」の枠で多くの介護ロボットが導入されています。この数値的特徴は通信環境整備の集計と同様で「26年－30年」は大規模修繕を施す時期であることから、修繕時に通信環境と同時に介護ロボットも導入した事業所が多かったことが想定されます。
- ・全ての圏域において介護ロボットを導入している事業所があります。「見守り」は、全ての圏域において導入している事業所があります。導入を検討するうえでの事例は身近にもあります。

### Ⅲ 日常業務において想定される各介助シーンにおける負担

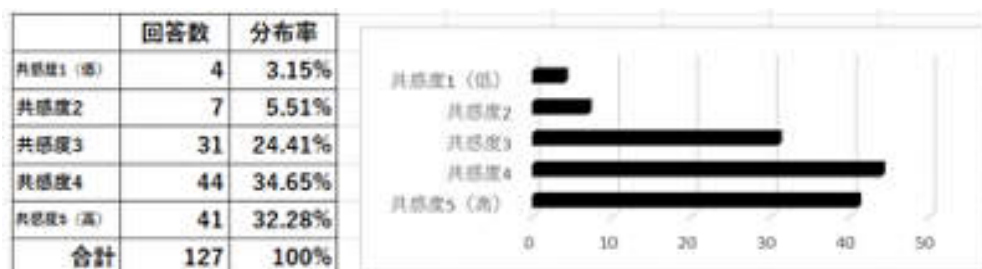
#### Ⅲ－1 食事介助

問1 リクライニング式車椅子のまま食事を摂取される方の介助時に大きな負担があると共感できる度合を選択してください。

A 食事摂取に適した安定した姿勢を確保すること



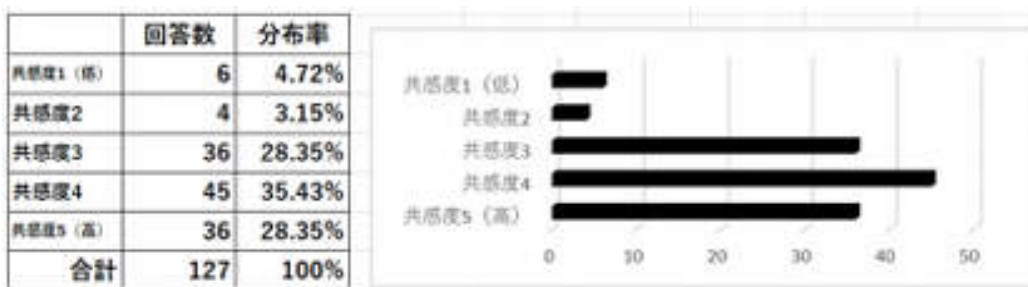
B 顎の位置（上がったたり下がったり）に注意しながら介助すること



C 飲み込みがしっかりとできているか確認しながら介助すること



D 傾眠しないように声掛けしながら介助をする



E その他 <自由記入欄 記載>

- ・現状、未経験職員や外国籍職員に対する食事介助における指導が行き届いておらず、効率を重視されてしまっている。
- ・その人にあったペースの食事介助を行うことを心がけています。

問2 「こんな機能やサポートをしてくれたら助かる」ものとして共感できる度合を選択してください。

A 安定した姿勢を介助の最後まで維持できるようにサポートしてくれる機能



B 顎の位置が上がりすぎ、下がりすぎの場合に教えてくれる機能



C 介助中も嚙下がしっかりとできていることが確認できる機能



D 傾眠予防の声掛けをサポートしてくれる機能



E その他 <自由記入欄 記載>

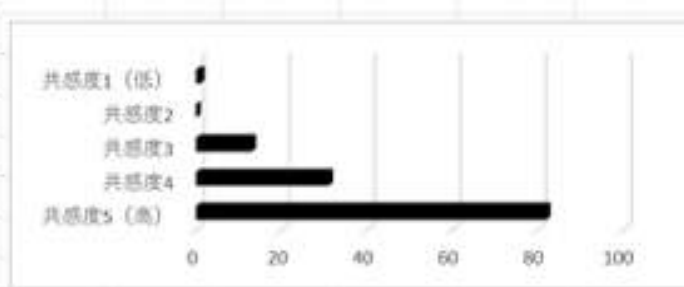
- ・自立の施設なので使う人がいないです。
- ・食事中の誤嚥は生命を維持するうえで特に注意が求められます。センサーにゆだねる事に不安を感じます。
- ・傾きがひどいかたの姿勢保持があればいいと思います。
- ・食事摂取量の自動記録。
- ・リクライニング車椅子の利用を使用しての食事介助の事例はない。
- ・食べ物飲み込んだことを教えてくれる機能。

III-2 入浴介助

問1 過体重で、拘縮強度、移乗時に多動のある寝台浴利用の方の入浴介助時に負担があるものと共感できる度合を選択してください。

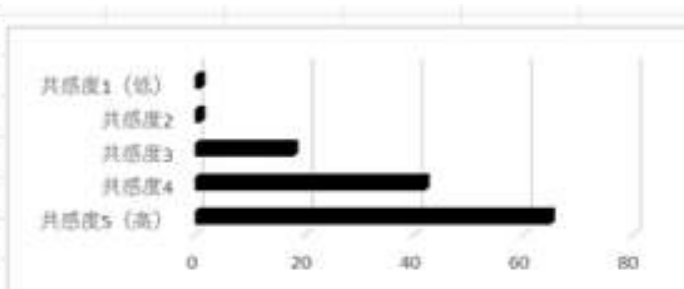
A 滑るなど転落などの事故に注意して移乗介助をすること

	回答数	分布率
共感度1 (低)	1	0.79%
共感度2	0	0.00%
共感度3	13	10.24%
共感度4	31	24.41%
共感度5 (高)	82	64.57%
合計	127	100%



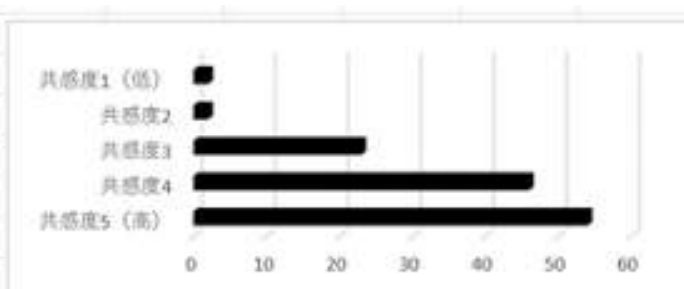
B 拘縮部位の可動域や痛みに配慮して洗身介助すること

	回答数	分布率
共感度1 (低)	1	0.79%
共感度2	1	0.79%
共感度3	18	14.17%
共感度4	42	33.07%
共感度5 (高)	65	51.18%
合計	127	100%



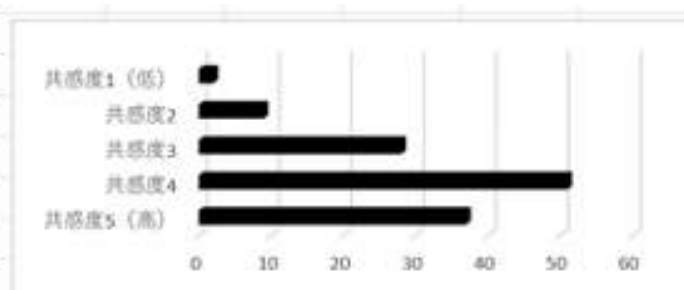
C 座位が保てるよう支えながら介助すること

	回答数	分布率
共感度1 (低)	2	1.57%
共感度2	2	1.57%
共感度3	23	18.11%
共感度4	46	36.22%
共感度5 (高)	54	42.52%
合計	127	100%



D 不安から車椅子のひじ掛けなどにつかまってしまうことがないように声掛けをしながらの介助

	回答数	分布率
共感度1 (低)	2	1.57%
共感度2	9	7.09%
共感度3	28	22.05%
共感度4	51	40.16%
共感度5 (高)	37	29.13%
合計	127	100%



E 浴槽の湯に顔が浸からないように、見守りをする



F その他 <自由記入欄 記載>

- ・自立の施設なのでほとんど使う人がいない。
- ・入浴は安全を担保する事により、リラックスし穏やかな時間となると考えます。
- ・座位保持が取れない方はストレッチ(寝台)入居者に合った入浴介助を行なっている。
- ・湯船に顔が浸かってしまう方は結構いらっしゃいます。
- ・皮膚状態の観察を行う。
- ・湯加減に気を付ける。
- ・洗髪している際、耳の中に湯が入らないようにする。
- ・スライドボードやスライドシートを活用している。
- ・皮膚状態の観察。表皮剥離などを起こさないよう注意する。

問2 移乗する際に、あれば便利な機能やサポートについて共感できる度合を選択してください。

A 皮膚などを傷つけないよう柔らかい素材でできている

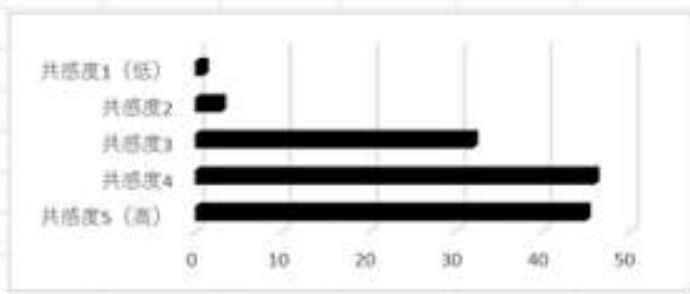


B 全自動ではなく、ひとつの動作時に操作を要する



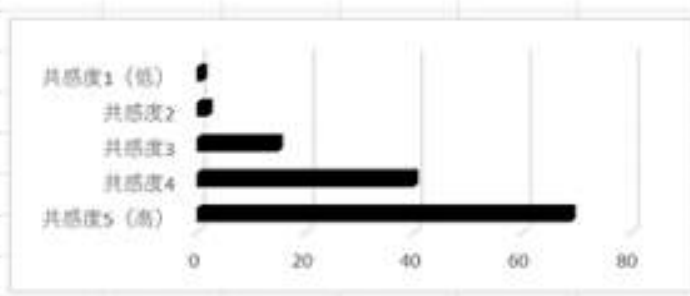
C コンパクトな設計のもの

	回答数	分布率
共感度1 (低)	1	0.79%
共感度2	3	2.36%
共感度3	32	25.20%
共感度4	46	36.22%
共感度5 (高)	45	35.43%
合計	127	100%



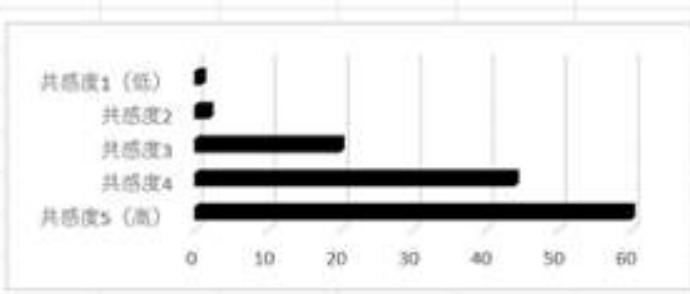
D 安定性が高いもの

	回答数	分布率
共感度1 (低)	1	0.79%
共感度2	2	1.57%
共感度3	15	11.81%
共感度4	40	31.50%
共感度5 (高)	69	54.33%
合計	127	100%



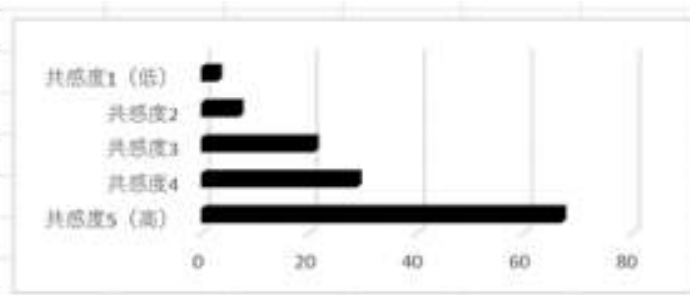
E 移動が可能なもの

	回答数	分布率
共感度1 (低)	1	0.79%
共感度2	2	1.57%
共感度3	20	15.75%
共感度4	44	34.65%
共感度5 (高)	60	47.24%
合計	127	100%



F 浴槽に顔が浸かるなど危険な状態を察知して知らせてくれる見守り機能

	回答数	分布率
共感度1 (低)	3	2.36%
共感度2	7	5.51%
共感度3	21	16.54%
共感度4	29	22.83%
共感度5 (高)	67	52.76%
合計	127	100%



G その他 <自由記入欄 記載>

- ・介護用で着脱の簡単なアシストスーツ
- ・拘縮や皮膚トラブルの多い方に対応出来たらいいと思います。
- ・自立の施設なのでほとんど使う人がいない。

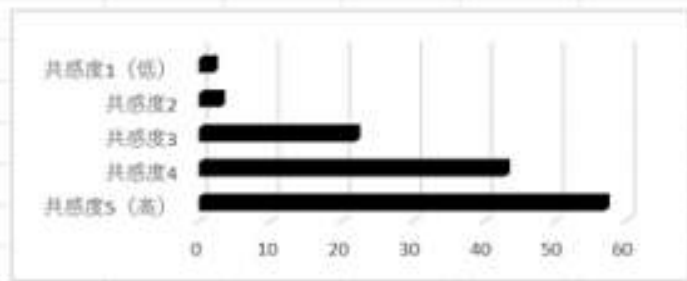


### Ⅲ-3 見守り

問1 夜間ベッドから転落リスクのある方の見守りにおいて負担があるものと共感できる度合を選択してください。

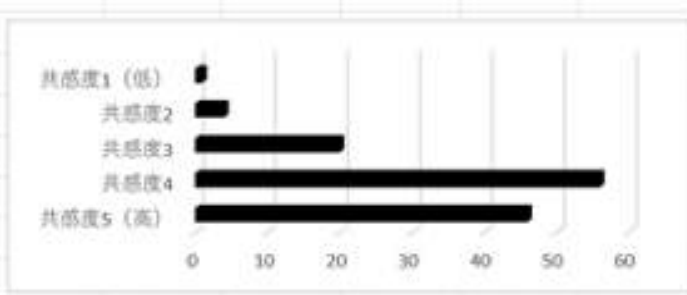
A 個別に見守っているポイントが異なる（Aさんは離床時、Bさんは起上り時など）

	回答数	分布率
共感度1 (低)	2	1.57%
共感度2	3	2.36%
共感度3	22	17.32%
共感度4	43	33.86%
共感度5 (高)	57	44.88%
合計	127	100%



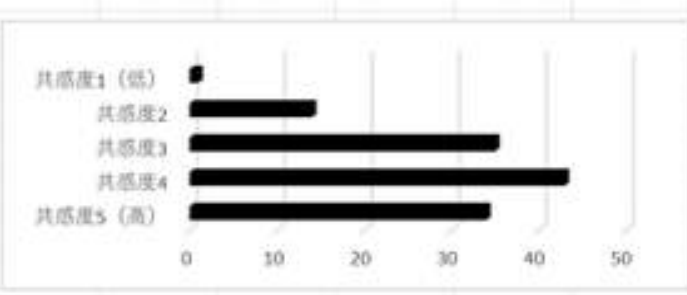
B 居室内から何かしらの物音がしないか常に注意している

	回答数	分布率
共感度1 (低)	1	0.79%
共感度2	4	3.15%
共感度3	20	15.75%
共感度4	56	44.09%
共感度5 (高)	46	36.22%
合計	127	100%



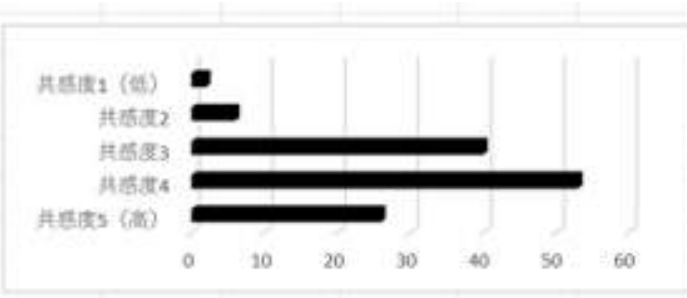
C 夜間、居室内での行動パターン・習慣がわからない

	回答数	分布率
共感度1 (低)	1	0.79%
共感度2	14	11.02%
共感度3	35	27.56%
共感度4	43	33.86%
共感度5 (高)	34	26.77%
合計	127	100%

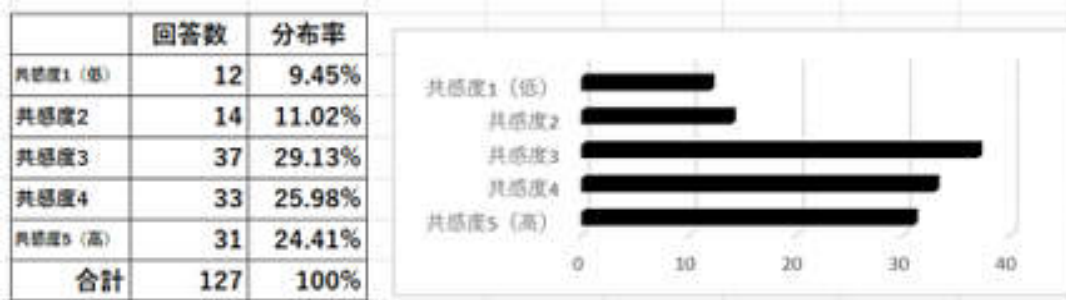


D 巡視することで起こしてしまう利用者がいる

	回答数	分布率
共感度1 (低)	2	1.57%
共感度2	6	4.72%
共感度3	40	31.50%
共感度4	53	41.73%
共感度5 (高)	26	20.47%
合計	127	100%



E 介助中の職員へのセンサー検知を防ぐための電源オフ、終了後の電源オン



F その他 <自由記入欄 記載>

- ・センサー類の数にも限りがあり、センサーを設置できず、見守り、巡回の回数を増やすことで職員の負担増につながっている。
- ・センサー検知器の使用はしていない。
- ・認知症などによる体動の激しいお客様に関してはアラームが鳴り続けてしまうため、アラームだけでは体動のみなのか、起き上がりによる転倒、転落、リスク高い状況であるのか、またはその他の要望なのかを確認するためにその都度お部屋に訪室する必要があることが負担に感じることが多々ある。
- ・離れた場所での行動を確認するために急いで移動する事（駆けつけには限界がある）
- ・少ない人数で対応する夜勤は神経を使います。センサーベッドを導入することにより随時対応が可能となりました。多忙となりましたが転倒、転落事故の軽減は図れています。
- ・施錠している方は巡視の際起こしてしまうことがあります。
- ・離床センサーの鳴動が起き上がりによるものか、寝返りによるものか判断がつかない。目視で不具合の判別が出来ない為、鳴動せず転倒等があったから初めて機器の不具合に気付く。
- ・Eの項目に関して、機材のスイッチは一切切らない事としている。
- ・センサーに時差が生じることがある。その為、訪室が遅れ事故に繋がる事を防ぎたい

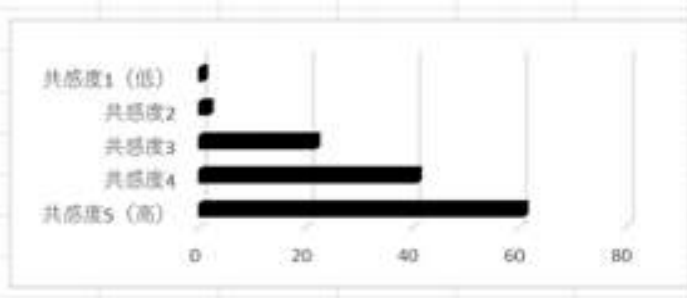
問2 夜間ベッドから転落リスクのある方の見守り時に、あれば便利な機能やサポートとしてあげた項目についての共感できる度合を選択してください。

A 個別に合わせた見守りをサポートしてくれる機能



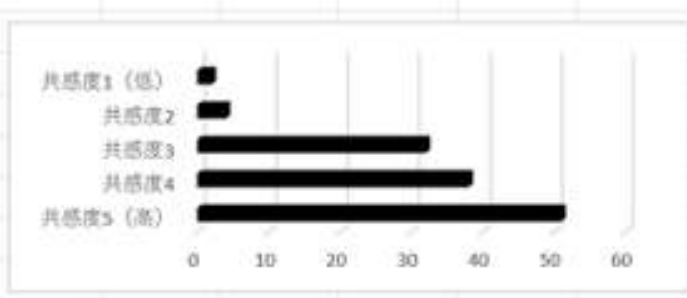
B 行動や物音を知らせてくれる機能

	回答数	分布率
共感度1 (低)	1	0.79%
共感度2	2	1.57%
共感度3	22	17.32%
共感度4	41	32.28%
共感度5 (高)	61	48.03%
合計	127	100%



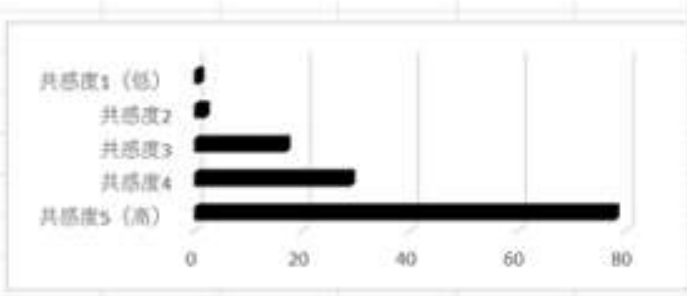
C 行動パターンを予測してくれる機能

	回答数	分布率
共感度1 (低)	2	1.57%
共感度2	4	3.15%
共感度3	32	25.20%
共感度4	38	29.92%
共感度5 (高)	51	40.16%
合計	127	100%



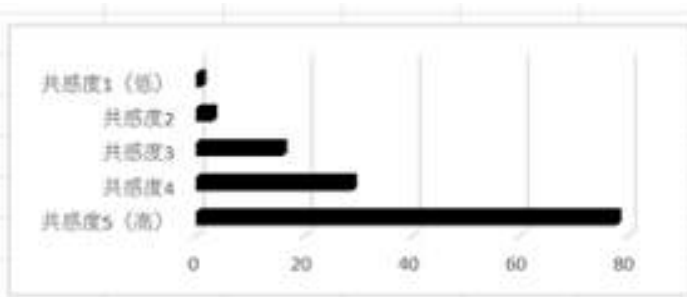
D 転落を防止してくれる機能

	回答数	分布率
共感度1 (低)	1	0.79%
共感度2	2	1.57%
共感度3	17	13.39%
共感度4	29	22.83%
共感度5 (高)	78	61.42%
合計	127	100%

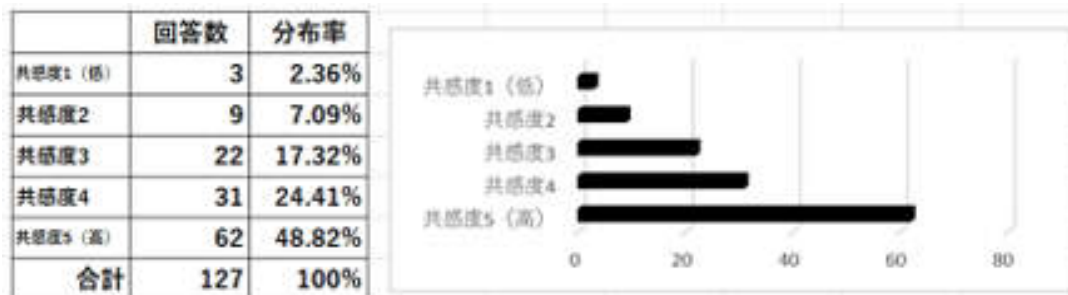


E 各種センサーの検知記録が自動で介護ソフトの経過記録に記録される機能

	回答数	分布率
共感度1 (低)	1	0.79%
共感度2	3	2.36%
共感度3	16	12.60%
共感度4	29	22.83%
共感度5 (高)	78	61.42%
合計	127	100%



F 介助に入る職員を認識して介助中だけセンサーが自動で OFF になる機能



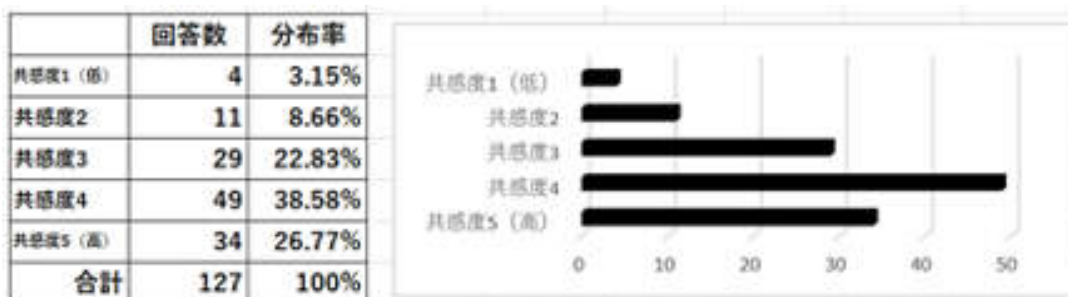
G その他 自由記載

- ・自立の施設なのでほとんど使う人がいない。
- ・予測機能はあったらいいなと思いました。
- ・機器の不具合等を自動検出してくれる機能が欲しい。
- ・通信機器（センサー類）の一本化。
- ・センサー音は、夜間気になるところです。

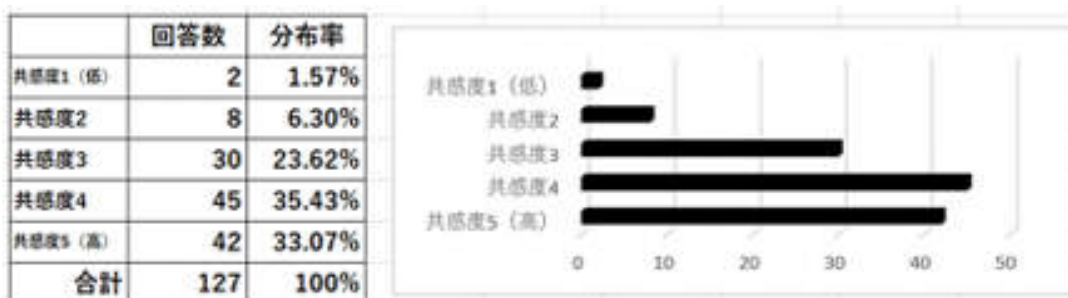
Ⅲ-4 排泄介助

問1 ベッド上でオムツ交換を実施する方の排泄介助時に負担があるものと共感できる度合を選択してください。

A ベッドの適正な高さ調節

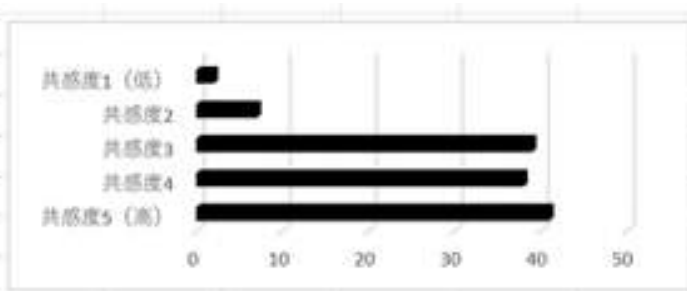


B 交換時の衣類着脱と体位変換



C 洗浄と清拭

	回答数	分布率
共感度1 (低)	2	1.57%
共感度2	7	5.51%
共感度3	39	30.71%
共感度4	38	29.92%
共感度5 (高)	41	32.28%
合計	127	100%



D 適切なアイテムの選定

	回答数	分布率
共感度1 (低)	4	3.15%
共感度2	10	7.87%
共感度3	51	40.16%
共感度4	37	29.13%
共感度5 (高)	25	19.69%
合計	127	100%



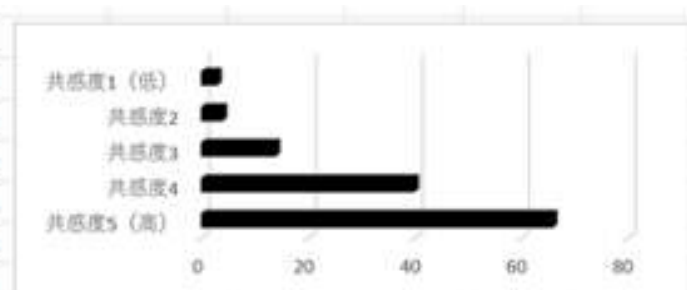
E 使用済みアイテムの処理と匂いの消臭

	回答数	分布率
共感度1 (低)	4	3.15%
共感度2	14	11.02%
共感度3	38	29.92%
共感度4	39	30.71%
共感度5 (高)	32	25.20%
合計	127	100%



F 介助中に他の方からのナースコールの受理応答

	回答数	分布率
共感度1 (低)	3	2.36%
共感度2	4	3.15%
共感度3	14	11.02%
共感度4	40	31.50%
共感度5 (高)	66	51.97%
合計	127	100%



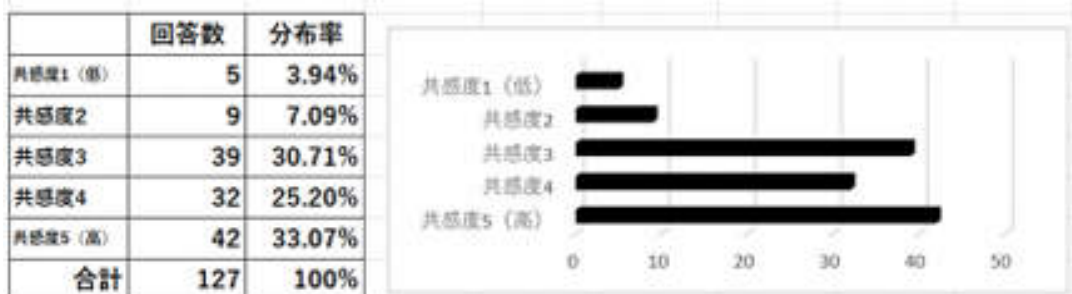
G その他 <自由記入欄 記載>

- ・交換時は手袋着用しているためにベッドの上げ下げを行う際には手袋の着脱を繰り返さなくてはならないために負担あり。足で操作できると楽なように感じます。又、コール対応も同じ行為を行う必要性あり手を使わなくても可能であれば楽だと感じる。

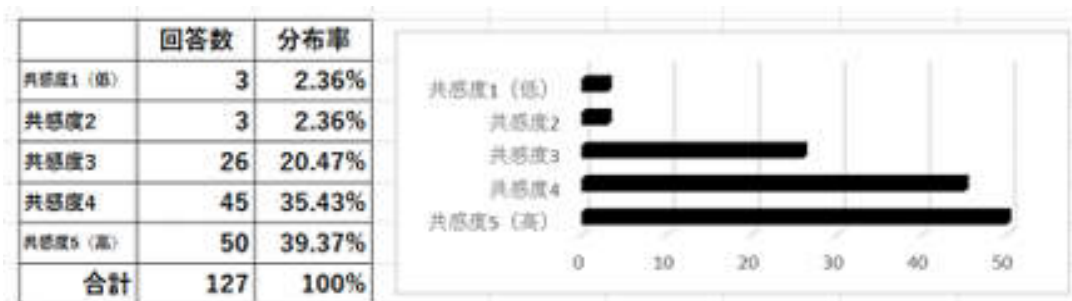
- ・ 自立の施設なのでほとんど使う人がいない。
- ・ 安全確保を第一とし、ケアにあたっています。
- ・ ナースコールが重なることは多々あり、都度優先順位を考えてます。
- ・ 個人に合わせたポジショニング
- ・ オムツ外し、弄便行為等の対応
- ・ 便のある際の洗浄をしっかり行う。
- ・ 皮膚観察、傷等
- ・ プライバシーを守る（カーテンを閉める、最低限の露出を心がける）
- ・ オムツを留める際は、鼠径部に沿って留める（お腹周りはきつく締め過ぎない）
- ・ 排尿のみの清拭は、負担の訴えは少ないが、排便時の清拭、洗浄の負担、衣類の汚染等があると、時間を要する、特に朝の排泄時に、重なり、又、起きてくる方等の心配が、焦らせてしまい、事故につながる事がある。
- ・ 適切な排泄資材の選定が課題となっている。

問2 ベッド上でオムツ交換を実施する方の排泄介助の際に、あれば便利な機能やサポートとしてあげた項目についての共感できる度合を選択してください。

A ボタンを1度押すだけで5段階程度に高さが変わるベッド機能



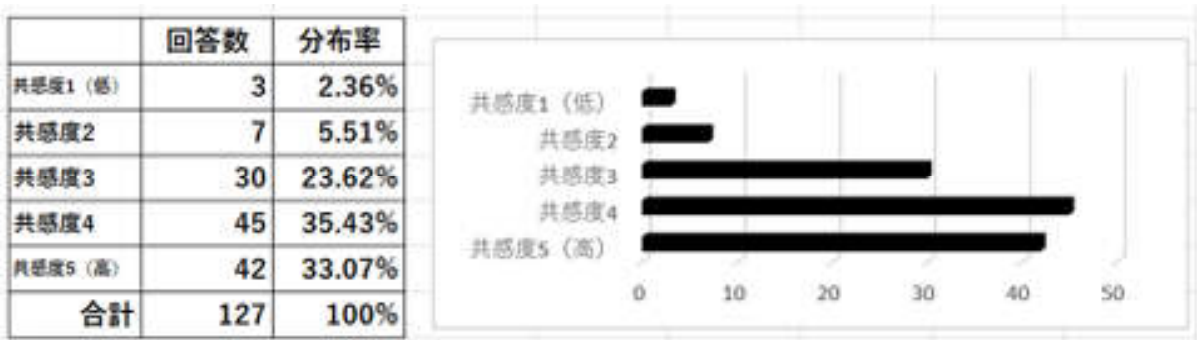
B 自動で体位変換をサポートしてくれるベッド機能



C 陰部や臀部洗浄の際に体位変換を支えてくれる機能



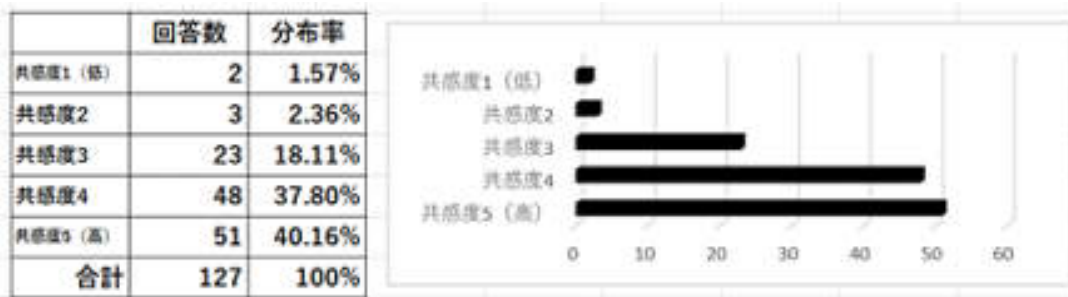
D 洗浄用の微温湯を適切な温度と水量で用意してくれる機器



E 部分（陰部等）洗浄用の自動シャンプー機器



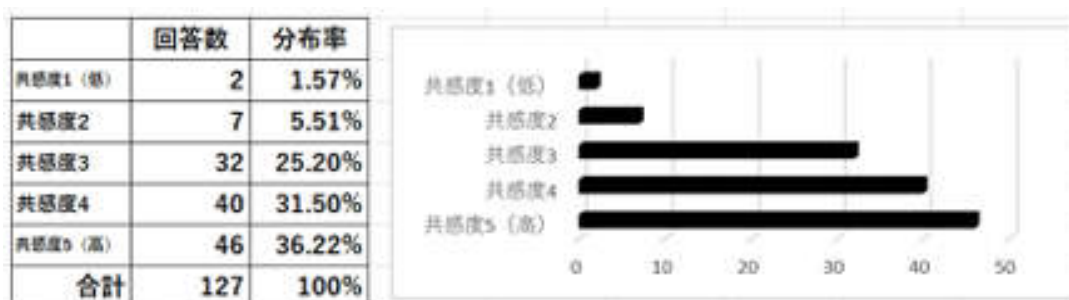
F 排尿量 (cc) や排便量 (g) 等の排泄量を計測できる機能



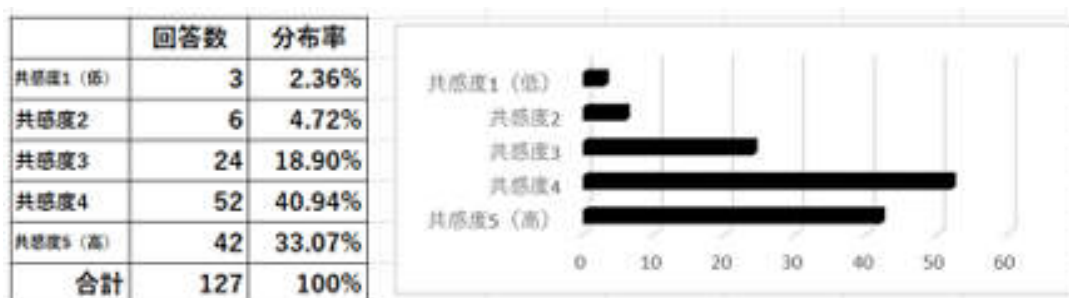
G 使用済みアイテムを入れると臭気を防いでパックしてくれる機器



H 支援中に受けたナースコール先と動画で繋がり受理応答できる機能



I 他職員へ速やかに連絡可能なインカム等の機器



J その他 <自由記入欄 記載>

- ・自立の施設なのでほとんど使う人がいない。
- ・ベッドの昇降速度が遅すぎる。認知症の方など転落等に備えて、最低床にしている方が多いが、職員の身体の負担が少ない高さまで上げるのに相当な時間がかかる。オムツ交換終了後、再び最低床に戻すがその時間もかなりかかる。結果、体に負担が掛かるのを承知で低床のままオムツ交換に入ることが多い。現場は人手不足で常に時間に追われている。ベッドの昇降をのんびり待っている時間はない。安全に高速に昇降できると良い。
- ・夜間の体位交換で起きてしまう方がいるので、自動だといいなと思いました。
- ・介護用で着脱の簡単なアシストスーツ
- ・尿漏れ・便漏れがあったら知らせてくれる機能。尿・便が出たら知らせてくれる機能。

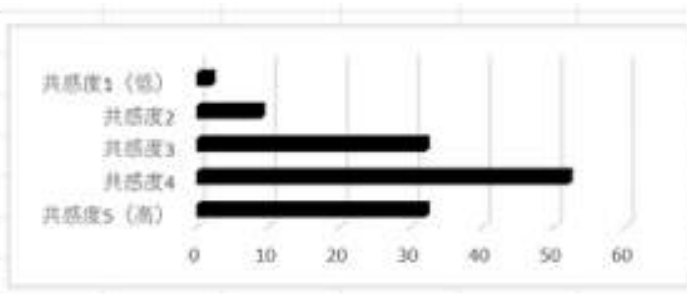


### III-5 コミュニケーション

問1 利用者様への声掛けをする際に負担があるものと共感できる度合を選択ください。

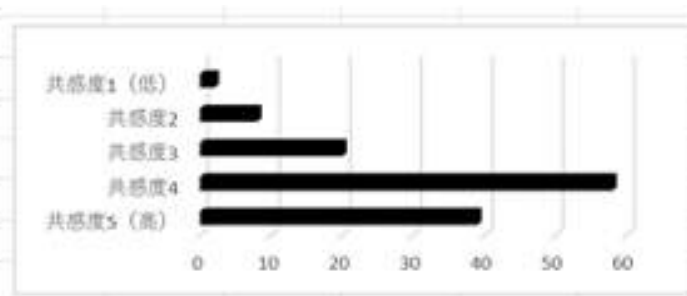
A サービス利用中に「家に帰りたい」と言われること

	回答数	分布率
共感度1 (低)	2	1.57%
共感度2	9	7.09%
共感度3	32	25.20%
共感度4	52	40.94%
共感度5 (高)	32	25.20%
合計	127	100%



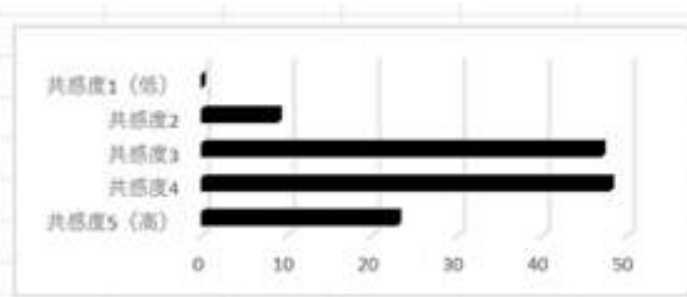
B 入浴の声がけ時に「入りたくない」と言われること

	回答数	分布率
共感度1 (低)	2	1.57%
共感度2	8	6.30%
共感度3	20	15.75%
共感度4	58	45.67%
共感度5 (高)	39	30.71%
合計	127	100%



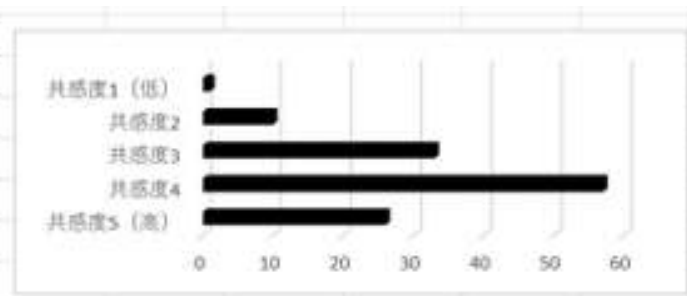
C 聴力が弱く他の方とうまくコミュニケーションが取れないこと

	回答数	分布率
共感度1 (低)	0	0.00%
共感度2	9	7.09%
共感度3	47	37.01%
共感度4	48	37.80%
共感度5 (高)	23	18.11%
合計	127	100%



D 失語症などで意思表示ができない方にアプローチすること

	回答数	分布率
共感度1 (低)	1	0.79%
共感度2	10	7.87%
共感度3	33	25.98%
共感度4	57	44.88%
共感度5 (高)	26	20.47%
合計	127	100%

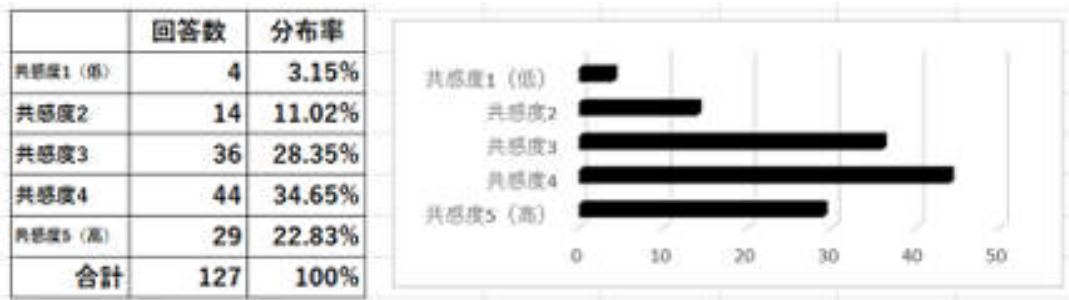


E その他 <自由記入欄 記載>

- ・じっくりとお話を傾聴したり、対応できる時間があれば問題ないが、その時間を設けることができないのが現場の現状。また経験値によってお客様への対応方法が異なるために経験値が少ない新人スタッフや手法を知らないスタッフにとってはかなり困難で時間を要するケースであると感じる。そういったコミュニケーションや認知症症状による周辺症状を理解、察知して早めに対応できたり、傾聴、話す技術や手法を提案してくれる機器があると双方にとってとても助かると思います。
- ・自立の施設なので使う人がいません。
- ・利用者の意志を大切にすると同時に、納得していただける説明ができるコミュニケーション能力を職員には獲得して欲しいと思います。
- ・ショートステイ職員なのですが、家に帰りたというのは毎日のようにあります。
- ・失語症などで意思疎通ができない方へのアプローチとして、筆談の必要性
- ・徘徊の意味、ご本人の目的を考えて一緒に歩いたり、ひと気の無い所で話をしたりするケア
- ・帰宅願望の方で傾聴を試みても、暴言・暴力行為等があること
- ・認知症の進行により、会話が成り立たず伝えたいことが伝わらないとき。
- ・相手の立場に立ち、物事が考えられるよう気を付けている。

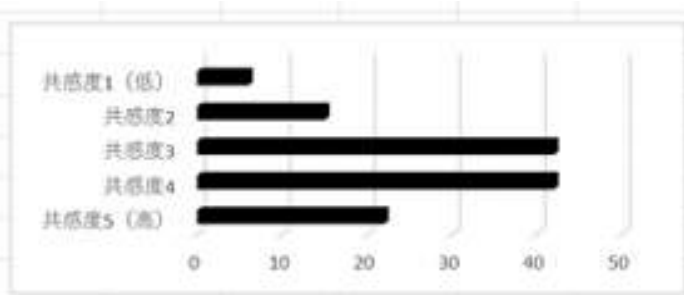
問2 利用者様への声掛けの際における施設行事および日常のレクなどコミュニケーション時に、あれば便利な機能やサポートとしてあげた項目について共感できる度合を選択してください。

A 帰宅願望の出現や原因予測をしたり、対応を提案してくれるサポート機能



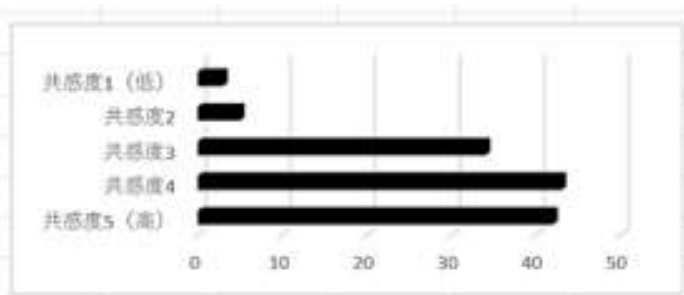
B 入浴拒否の出現や原因を予測をしたり、対応を提案してくれるサポート機能

	回答数	分布率
共感度1 (低)	6	4.72%
共感度2	15	11.81%
共感度3	42	33.07%
共感度4	42	33.07%
共感度5 (高)	22	17.32%
合計	127	100%



C 聴力の弱さをカバーして周囲の方とのコミュニケーションをサポートしてくれる機能

	回答数	分布率
共感度1 (低)	3	2.36%
共感度2	5	3.94%
共感度3	34	26.77%
共感度4	43	33.86%
共感度5 (高)	42	33.07%
合計	127	100%



D 失語症の方の意思表示を文章等により円滑にしてくれる機能

	回答数	分布率
共感度1 (低)	0	0.00%
共感度2	5	3.94%
共感度3	33	25.98%
共感度4	45	35.43%
共感度5 (高)	44	34.65%
合計	127	100%



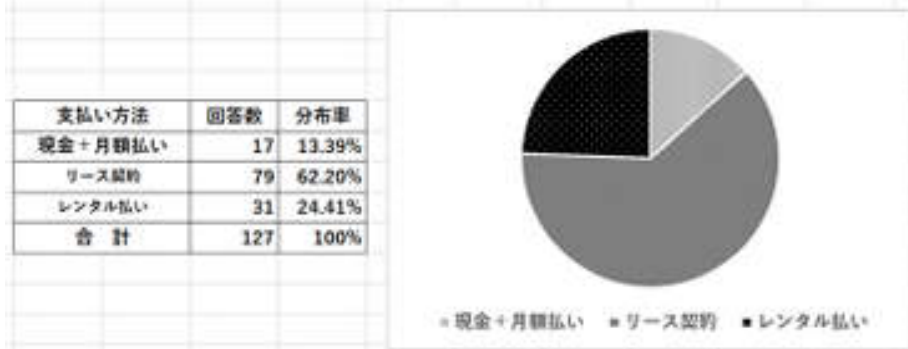
E その他 <自由記入欄 記載>

- ・ 自立の施設なのでほとんど使う人がいない。
- ・ 認知症の方との会話相手になってくれる機能が欲しい。ChatGPT 程度の応答をしてくれれば十分。
- ・ 話せない方のサポートはいいなと思いました。
- ・ 認知症の進行により会話が成立しない場合のサポートをしてくれる機能。

#### IV 導入費用および月額費用に関して

IV-1 もし、希望にあった介護ロボットが開発された場合、希望する支払い方法についてお教えてください。

- ・6割超が「リース契約」での購入・支払いを希望しております。



IV-2 IV-1で「現金+月額費用」の回答における1台の介護ロボット購入に充てる予算上限額



IV-3 IV-1で「現金+月額費用」の回答における1台の1か月あたりランニング費用の支払い上限額



- ・介護ロボット1台の購入予算上限額は「10万円」、1台あたりの月額ランニング費用の上限額は「1,000円以下」が最多分布でした。

IV-4 IV-1で『リース契約』の回答における、1台の1か月あたりのリース上限額の目安金額の分布



IV-4 IV-1で『レンタル契約』の回答における、1台の1か月あたりのリース上限額の目安金額の分布



## 情報発信テーマ (チーム別報告書)

チーム別一覧	
氏名	施設名
<b>食事介助(チーム名：担当役員+1名)</b>	
戸嶋 靖浩	良宝園
濱野 賢一	康寿園
戸山 文洋	見沼緑水苑
神谷 敏弘	晴和苑
大内 英之	埼玉県社会福祉協議会 介護ロボットアドバイザー
<b>入浴介助(チーム名：ノーリフト)</b>	
■濱野 賢一	康寿園
★堀口 英幸	大浜ケアセンター
田中 孝彦	杏樹苑
中嶋 照夫	さくらぎ苑
青木 良雄	はるな苑
<b>見守り(チーム名：守護神)</b>	
◆戸嶋 靖浩	良宝園
★藤野 陽介	太行路
杉浦 佑介	ご福あげお
荒瀬 裕一	見沼緑水苑
<b>排泄支援(チーム名：スッキリ21)</b>	
■戸山 文洋	見沼緑水苑
★市川 将史	かがやき
酒本 隆敬	杏樹苑爽風館
井橋 興蔵	キャンベルホーム
<b>コミュニケーション(チーム名：21えもん)</b>	
■神谷 敏弘	晴和苑
★大隅 徹	悠う湯ホーム
加藤 綾	ひらすかの郷
堀 弘尚	ベルホーム
出雲 秀章	まきば園

■担当役員 ★チームリーダー

## 報告:食事介助業務における「困りごと・負担箇所」調査研究

(チーム名: 担当役員+1)

氏名	所属施設
戸嶋 靖浩	良宝園
濱野 賢一	康寿園
戸山 文洋	見沼緑水苑
神谷 敏弘	晴和苑
大内 英之	埼玉県社会福祉協議会 介護ロボットアドバイザー

### ■アンケート項目の設定にあたって

- ・アンケートを実施するにあたり、各介護業務において困り事や負担を感じる場面や対象を設定し項目を設定しました。

### ■食事介助業務における場面・対象設定およびアンケート項目

<設定した介護業務場面や対象>

・リクライニング式車椅子のまま食事を摂取される方の食事介助

<アンケート項目>

ポイント	設問主旨	平均共感度
安定した姿勢の確保	安定した姿勢を確保することに困っている。	3.73
	姿勢維持をサポートする機能があれば負担は軽減する。	4.16
顎の位置	顎の位置に注意しながら介助することに負担を感じる。	3.87
	不適正な顎の位置を通知する機能で負担は軽減する。	3.83
嚥下の確認	嚥下を確認しながら介助することに負担を感じる。	4.13
	嚥下していることを通知する機能で負担は軽減する。	4.21
傾眠防止	声掛けしながらの介助することに負担を感じる。	3.80
	声かけをサポートしてくれる機能で負担は軽減する。	3.53

◇介護ロボットを開発する皆さまへ“現場からのメッセージ”(詳細はP●●)

嚥下していることの確認をサポートする機器があれば大きな負担軽減につながるだけでなく、利用者さまも安心して食事が楽しめます。

## 食事介助業務における困りごと・負担箇所

### ポイント1

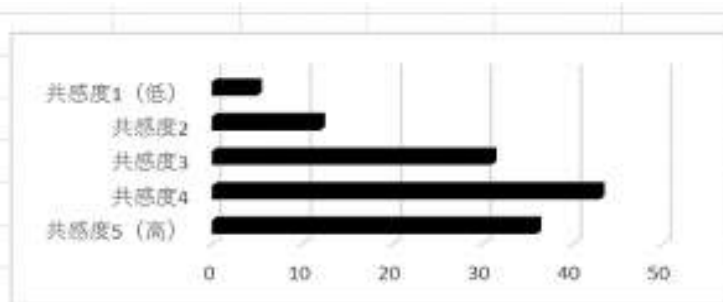
### 安定した姿勢の確保

#### ■該当アンケート調査結果

Q：食事摂取に適した安定した姿勢を確保することに負担を感じる。

【集計・分布】

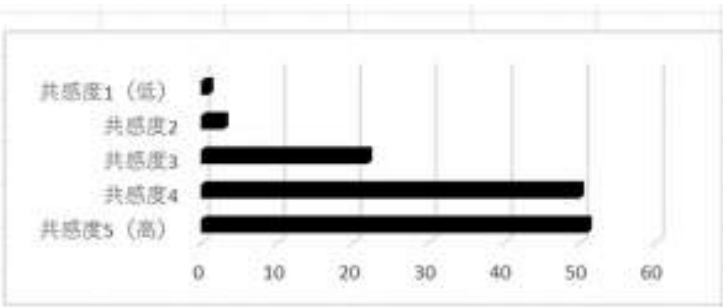
	回答数	分布率
共感度1 (低)	5	3.94%
共感度2	12	9.45%
共感度3	31	24.41%
共感度4	43	33.86%
共感度5 (高)	36	28.35%
合計	127	100%



Q：安定した姿勢を介助の最後まで維持できるようにサポートしてくれる機能があれば負担は軽減できますか。

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	1	0.79%
共感度2	3	2.36%
共感度3	22	17.32%
共感度4	50	39.37%
共感度5 (高)	51	40.16%
合計	127	100%



#### ■安定した姿勢が確保することができないために起こったヒヤリハット・困りごと事例

- 車いす上でずっこけ姿勢になり、すべり落ちそうになる。
- 背上げ不良姿勢で食事介助を行い、誤嚥しそうになる。
- クッションでの姿勢保持が不適切なまま食事介助を行い、誤嚥しそうになる。

#### ■安定した姿勢を確保するための工夫・取組み・欲しい機能

- 色々な形状、硬さ、長さのクッションを用意している(自作の場合もあり)。
- 食事時間が長くないようにする。
- 機能訓練指導員による評価を受ける。



ポイント2

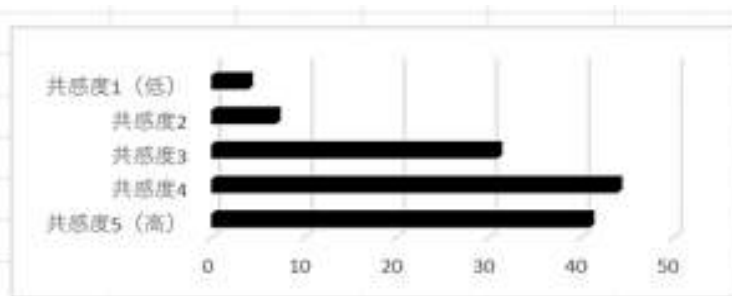
顎の位置

■該当アンケート調査結果

Q：顎の位置(上がったたり下がったり)に注意しながら介助することに負担を感じる。

【集計・分布】

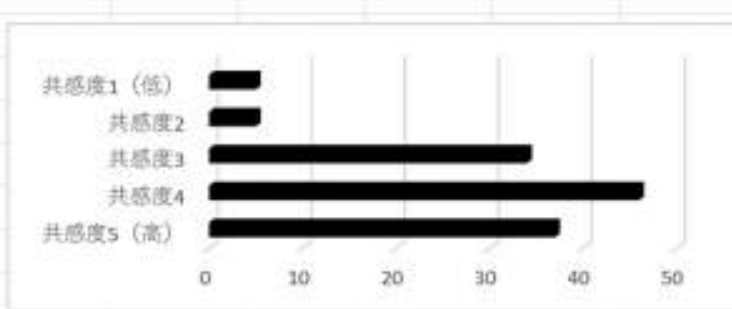
	回答数	分布率
共感度1 (低)	4	3.15%
共感度2	7	5.51%
共感度3	31	24.41%
共感度4	44	34.65%
共感度5 (高)	41	32.28%
合計	127	100%



Q：顎の位置が上がりすぎ、下がりすぎの場合に教えてくれる機能があれば負担は軽減できますか。

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	5	3.94%
共感度2	5	3.94%
共感度3	34	26.77%
共感度4	46	36.22%
共感度5 (高)	37	29.13%
合計	127	100%



■適切な顎の位置が確保することができないために起こったヒヤリハット・困りごと事例

- 吸い飲みで水分を補給する時にむせかえてしまった。
- むせこんだ際に、自分の吐物で窒息しそうになった。
- 食事中に苦しそうな表情になった。

■適切な顎の位置を確保するための工夫・取組み・欲しい機能

- 車いすの角度を適切にする。
- クッション等を使用し顎の位置を調整する。
- 適している顎の位置を知らせ、位置がズレると教えてくれる機能。

ポイント3

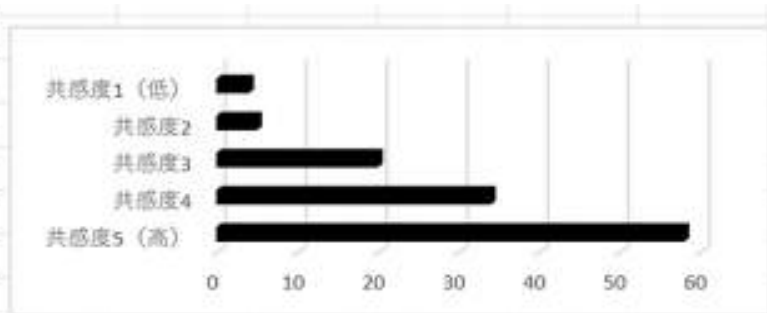
嚥下の確認

■該当アンケート調査結果

Q：飲み込みがしっかりとできているか確認しながら介助することに負担を感じる。

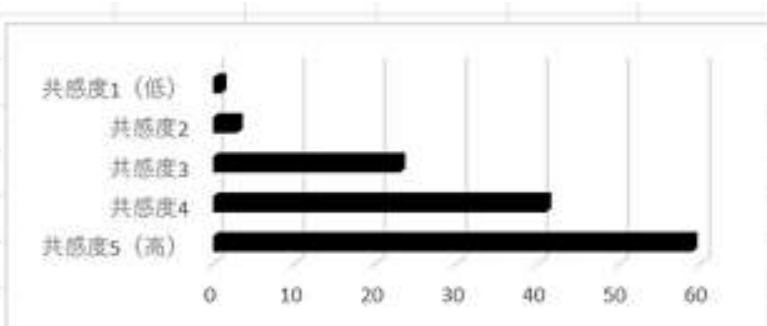
【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	4	3.15%
共感度2	5	3.94%
共感度3	20	15.75%
共感度4	34	26.77%
共感度5 (高)	58	45.67%
合計	121	95%



Q：介助中も嚥下がしっかりとできていることが確認できる機能があれば負担は軽減できますか。

	回答数	分布率
共感度1 (低)	1	0.79%
共感度2	3	2.36%
共感度3	23	18.11%
共感度4	41	32.28%
共感度5 (高)	59	46.46%
合計	127	100%



■飲み込みが確認できなかったために起こったヒヤリハット・困りごと事例

- 口を開けたので食べ物を入れたら、まだ残っていた。
- 口腔内の残りを確認しないで他の場所に行った。戻ったら急変していた。
- 食後、リクライニングを倒したら食べ物が口腔に残っていて誤嚥しそうになった。

■飲み込みを確認するための工夫・取組み・欲しい機能

- 経口維持加算の検討をする。
- 食事介助のペースを統一にする。
- 誤嚥に対する職員の知識を共有する。

ポイント4

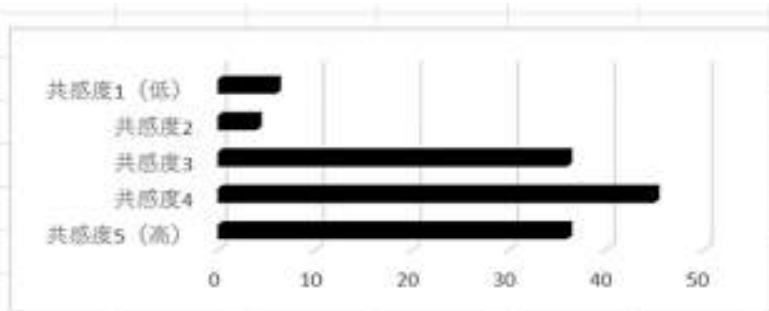
傾眠防止

■該当アンケート調査結果

Q：傾眠しないように声掛けしながら介助をすることに負担を感じる。

【集計・分布】

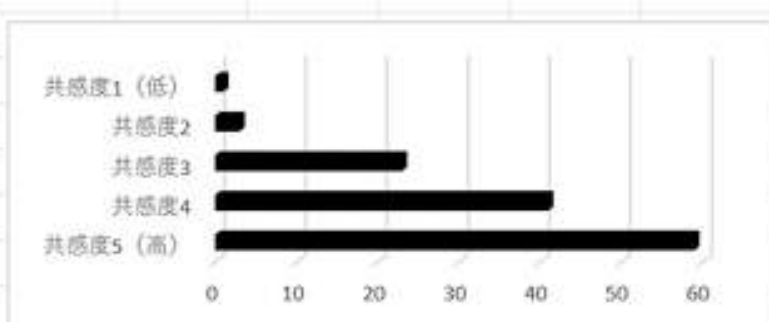
	回答数	分布率
共感度1 (低)	6	4.72%
共感度2	4	3.15%
共感度3	36	28.35%
共感度4	45	35.43%
共感度5 (高)	36	28.35%
合計	127	100%



Q：傾眠予防の声掛けをサポートしてくれる機能があれば負担は軽減できますか。

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	1	0.79%
共感度2	3	2.36%
共感度3	23	18.11%
共感度4	41	32.28%
共感度5 (高)	59	46.46%
合計	127	100%



■食事介助中に傾眠したために起こったヒヤリハット・困りごと事例

- 口が開かないので食事介助が進まない。
- ついつい介助ペースが早くなり誤嚥・むせこみの危険性が高まってしまう。
- 口腔内に食べ物が残ってしまうので嘔吐・むせこみの危険性が高まってしまう。

■食事介助中に傾眠しないための工夫・取組み・欲しい機能

- 入浴後の食事を避ける。
- 食事時間を短縮(食事量調整)する。
- 食事時間をずらす。

## 食事介助業務における困りごと・負担箇所

### 介護ロボットを開発する皆さまへ現場からのメッセージ

**嚥下していることの確認をサポートする機器があれば、大きな負担軽減につながるだけでなく、利用者さまも安心して食事が楽しめます。**

<p>業務の重要性</p>	<p>食事をすることは“生きる”という点において必要不可欠な行為であり、介護施設においても元気にお過ごし頂くための「源」として捉えています。</p> <p>ご自身で食することができない方には職員が介助をしながらお召し上がり頂きますが、その際に飲み込まないうちに促したりすると誤って気管に入ってしまう、むせこみを引き起こす場合があります。</p>
<p>業務の危険性</p>	<p>誤嚥性肺炎を発症し亡くなる場合もあります</p>
<p>業務中のヒヤリハット・困りごと(再掲)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口を開けたので食べ物を入れたら、まだ残っていた。</li> <li>・口腔内の残りを確認しないで他の場所に行った。戻ったら急変していた。</li> <li>・食後、リクライニングを倒したら食べ物が口腔に残っていて誤嚥しそうになった。</li> </ul>
<p>業務中に職員が確認しているポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ物をしっかりと飲み込んだか。</li> <li>・口のなかに食べ物が残っていないか。</li> </ul>
<p>負担軽減をはかるための工夫や取組み(再掲)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経口維持加算の検討をする。</li> <li>・食事介助のペースを統一にする。</li> <li>・誤嚥に対する職員の知識を共有する。</li> </ul>
<p>期待する機能や使い方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嚥下したことが確認できる機能</li> <li>・食事時のバイタルがわかる(早いと呼吸も早くなる)</li> <li>・介助のペースを教えてくれる(介助者ペースを一定する)</li> </ul>

**報告: 移乗介助業務における「困りごと・負担箇所」調査研究**  
(チーム名: ノーリフト)

氏名	所属施設
■濱野 賢一	康寿園
★堀口 英幸	大浜ケアセンター
田中 孝彦	杏樹苑
中嶋 照夫	さくらぎ苑
青木 良雄	はるな苑

■ = 担当役員 ★ = チームリーダー

**■ アンケート項目の設定にあたって**

・アンケートを実施するにあたり、各介護業務において困り事や負担を感じる場面や対象を設定し項目を設定しました。

**■ 移乗介助業務における場面・対象設定およびアンケート項目**

< 設定した介護業務場面や対象 >

・過体重で、拘縮強度、移乗時に多動のある寝台浴利用の方の入浴介助

< アンケート項目 >

① 負担に感じる介助場面

ポイント	設問主旨	平均共感度
移乗時の事故	滑るなど転落事故に注意して移乗介助をすることに負担を感じる。	4.52
拘縮や痛みへの配慮	拘縮部位の可動域や痛みを配慮しつつ洗身することに負担を感じる。	4.33
座位保持	座位が保てるよう支えながら介助することに負担を感じる。	4.17
声掛け	不安から車椅子のひじ掛けなどにつかまってしまうことがないように声掛けをしながらの介助を行うことに負担を感じる。	3.87
見守り	浴槽の湯に顔が浸からないようになどの見守りに負担を感じる。	4.31

<アンケート項目>

②移乗・入浴介助時にあればよい機能やサポート

ポイント	設問主旨	平均共感度
素材や材質	皮膚などを傷つけないよう柔らかい素材でできている。	4.23
操作性	全自動ではなく、ひとつの動作時に操作を要する。	3.60
機器の大きさ	コンパクトな設計のもの	4.03
安定性	安定性が高いもの	4.37
移動性	移動が可能なもの	4.26
見守り機能	浴槽に顔が浸かる等危険な状態を察知し知らせてくれる見守り機能。	4.18

◇介護ロボットを開発する皆さまへ“現場からのメッセージ”(詳細はP51~)

ホールド性に優れていることと、安全機能を備えることで職員の腰部負担軽減が図れ、同時に利用者が安心して入浴できます。

入浴介助時における困りごと・負担箇所

ポイント1

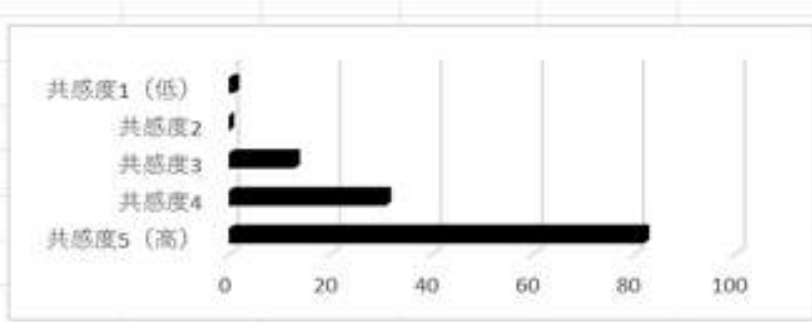
移乗時の事故

■該当アンケート調査結果

Q：滑るなど転落事故に注意して移乗介助をすることに負担を感じる。

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	1	0.79%
共感度2	0	0.00%
共感度3	13	10.24%
共感度4	31	24.41%
共感度5 (高)	82	64.57%
合計	127	100%



■滑るなど転落事故のヒヤリハット・困りごと事例

- 抱えている手が滑り、転落しそうになる。
- 床がすべり、転落しそうになる。
- 滑り止め防止に敷いている滑り止めマット、クッション材につまずき、転倒しそうになる。

【前頁からの続き】

## ■滑るなどの転落事故を起こさないような工夫・取組み・欲しい機能

- 滑り止めのマットを敷く。
- 水気やボディソープ、シャンプーを除去する。
- 滑りにくい床。

## 入浴介助時における困りごと・負担箇所

### ポイント2

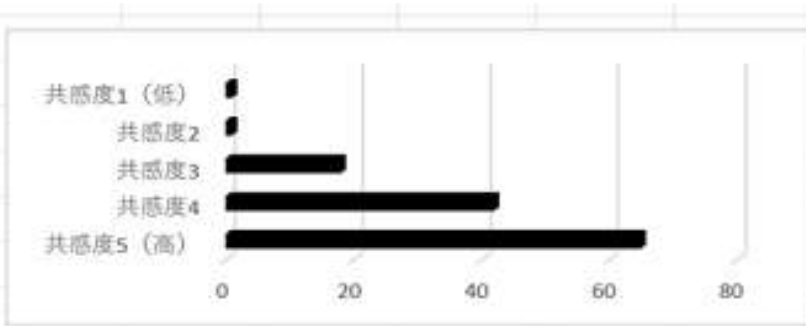
### 拘縮や痛みへの配慮

## ■該当アンケート調査結果

Q：拘縮部位の可動域や痛みを配慮しつつ洗身することに負担を感じる。

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1（低）	1	0.79%
共感度2	1	0.79%
共感度3	18	14.17%
共感度4	42	33.07%
共感度5（高）	65	51.18%
合計	127	100%



## ■拘縮部位の可動域や痛みを配慮しつつ洗身することでのヒヤリハット事例や困りごと

- 洗いムラによるスキントラブル。
- 可動域に配慮したことで、体位が乱れる。
- 無理が生じると、皮下出血などの危険性がある。

## ■拘縮部位の可動域や痛みを配慮しつつ洗身する工夫・取組み・欲しい機能

- 直接触れなくても拘縮部位の清潔を保てる機器。
- 専門職の指導のもと可動域に配慮したうえでの、洗身方法の検討、共有。
- 拘縮部位を洗いやすい、洗身器具の使用。

## 入浴介助時における困りごと・負担箇所

### ポイント3

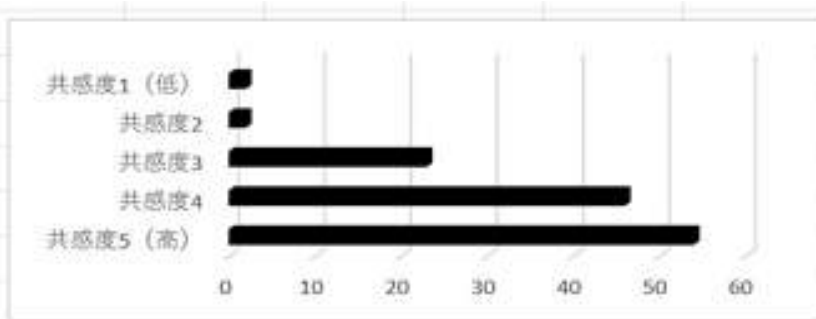
### 座位保持

#### ■該当アンケート調査結果

Q：座位が保てるよう支えながら介助することに負担を感じる。

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	2	1.57%
共感度2	2	1.57%
共感度3	23	18.11%
共感度4	46	36.22%
共感度5 (高)	54	42.52%
合計	127	100%



#### ■座位が保つことができずに発生したヒヤリハット事例や困りごと

- シャワーチェアからのずり落ち、傾き。
- 座位不安定により、身体をぶつけてしまう。
- 体が浮いてしまう、顔がお湯につきそうになる。

#### ■座位を保つために行っている工夫・取組み・欲しい機能

- 身体に合わせて形状を記憶するクッション。
- 座位を自動補正する椅子型の機器。
- 座位が保てないことを事前に教えてくれるロボット。

## 入浴介助時における困りごと・負担箇所

### ポイント4

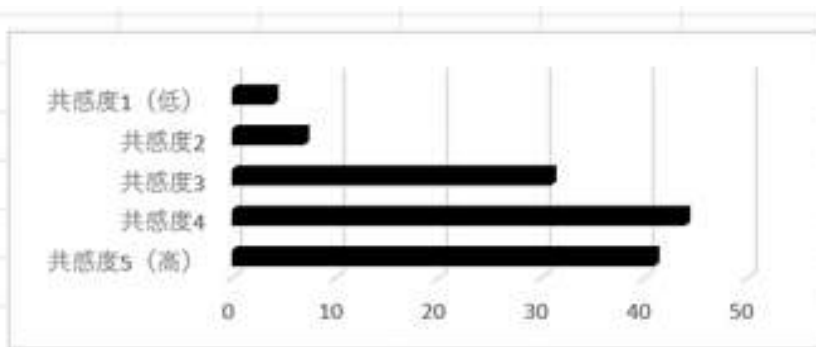
### 声掛け

#### ■該当アンケート調査結果

Q：不安から車椅子のひじ掛けなどにつかまってしまうことがないように声掛けをしながらの介助を行うことに負担を感じる。

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	4	3.15%
共感度2	7	5.51%
共感度3	31	24.41%
共感度4	44	34.65%
共感度5 (高)	41	32.28%
合計	127	100%





【前頁からの続き】

## ■車椅子のひじ掛けなどにつかまってしまい発生したヒヤリハット事例や困りごと

- 介助者は余計に腰部に負担がかかる。
- つかまった部位の損傷の危険性。
- 不安定になり、転倒の危険性。

## ■車椅子のひじ掛けなどにつかまらないようにしている工夫、取組み、欲しい機能など

- 介護者の身体に手をまわしてもらうことを補助する機能。
- 安心感が得られる声掛け。
- アームレストが跳ね上げ対応の車いすを使用。

### 入浴介助時における困りごと・負担箇所

#### ポイント5

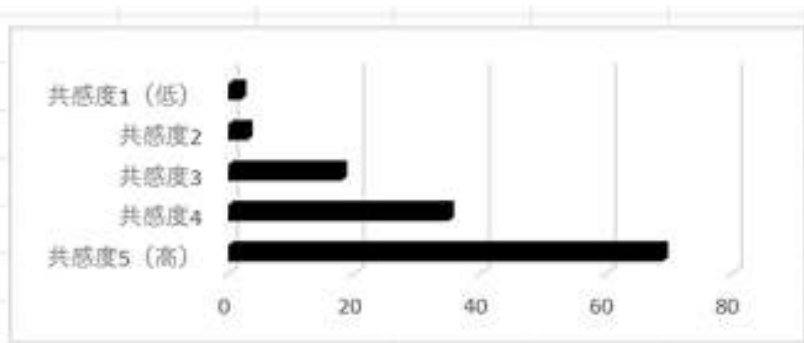
#### 見守り

## ■該当アンケート調査結果

Q：浴槽の湯に顔が浸からないようになどの見守りに負担を感じる。

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1（低）	2	1.57%
共感度2	3	2.36%
共感度3	18	14.17%
共感度4	35	27.56%
共感度5（高）	69	54.33%
合計	127	100%



## ■浴槽の湯に顔が浸かるなど、入浴介助時の見守りに関するヒヤリハット事例や困りごと

- 体が浮いてしまい、座位保持ができない。
- お湯が深すぎて、顔が浸かりそうになる。
- 常時見守りを行う必要性があり、目が離せない。

## 【前頁からの続き】

### ■入浴介助時の見守りに関する工夫、取組み、欲しい機能など

- 介助者は余計に腰部に負担がかかる。
- つかまった部位の損傷の危険性。
- 不安定になり、転倒の危険性。

### 移乗・入浴介助時にあればよい機能やサポート

#### あれば助かる機能やサポート1

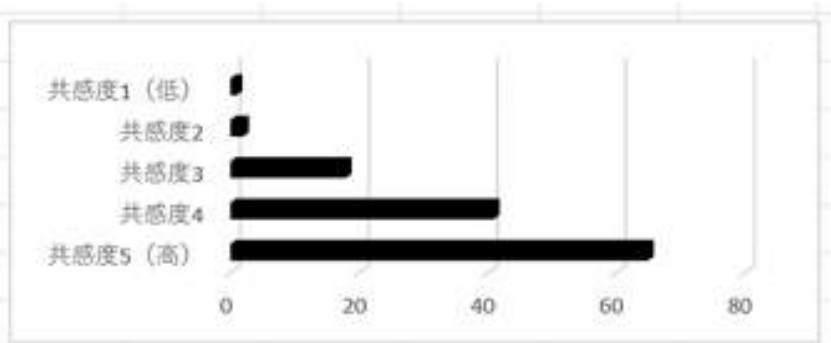
#### 素材や材質

### ■該当アンケート調査結果

Q：皮膚などを傷つけないよう柔らかい素材でできている。

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	1	0.79%
共感度2	2	1.57%
共感度3	18	14.17%
共感度4	41	32.28%
共感度5 (高)	65	51.18%
合計	127	100%



### ■補足説明(使用する場面や欲しい機能、サポート等)

- 皮膚に接触する部分については、容易に皮膚剥離などを招いてしまうので、柔らかい素材でできたものが好ましい。  
利用者様の安心感にもつながるので、ソフトな質感でホールド性が得られる物が良い。

### 移乗・入浴介助時にあればよい機能やサポート

#### あれば助かる機能やサポート2

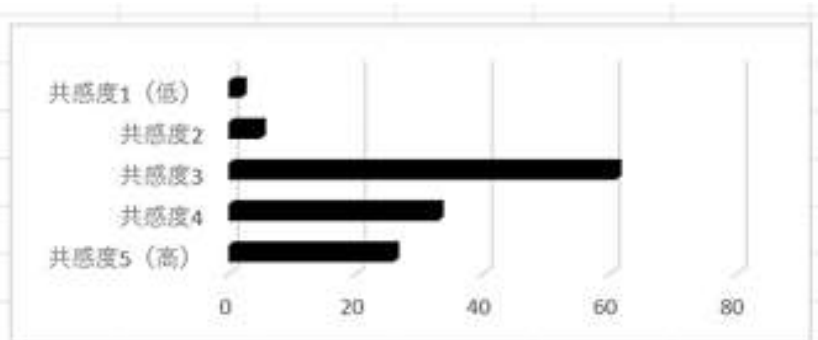
#### 操作性

### ■該当アンケート調査結果

Q：全自動ではなく、ひとつの動作時に操作を要する。

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	2	1.57%
共感度2	5	3.94%
共感度3	61	48.03%
共感度4	33	25.98%
共感度5 (高)	26	20.47%
合計	127	100%



## 【前頁からの続き】

### ■補足説明(使用する場面や欲しい機能、サポート等)

- 操作のポイントごとに音声等でガイドしてくれる機能があれば安全。
- ひとつの動作に操作は必要だが、複数の動作ではなく単純な操作。

移乗・入浴介助時にあればよい機能やサポート

あれば助かる機能やサポート3

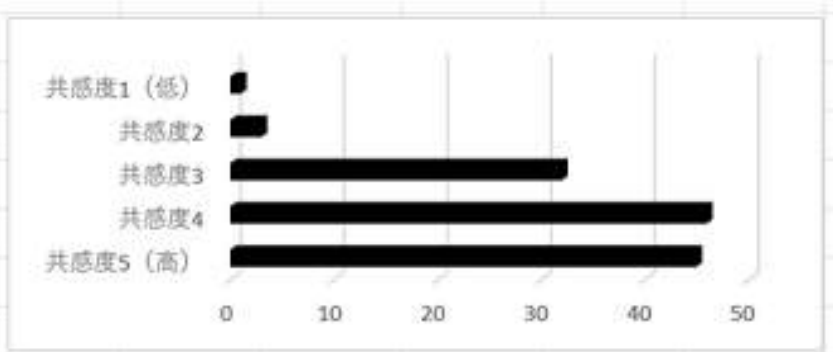
## 機器の大きさ

### ■該当アンケート調査結果

Q :コンパクトな設計のもの

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	1	0.79%
共感度2	3	2.36%
共感度3	32	25.20%
共感度4	46	36.22%
共感度5 (高)	45	35.43%
合計	127	100%



### ■補足説明(使用する場面や欲しい機能、サポート等)

- 事業所により浴室環境などは異なるため、狭くても動作が可能なものであることが望ましい。

移乗・入浴介助時にあればよい機能やサポート

あれば助かる機能やサポート4

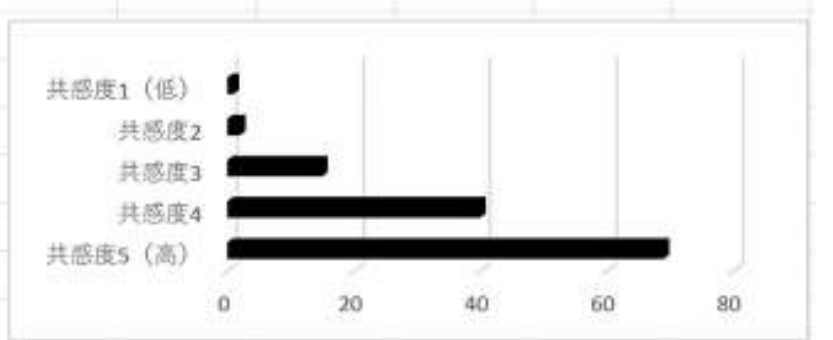
## 安定性

### ■該当アンケート調査結果

Q :安定性が高いもの

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	1	0.79%
共感度2	2	1.57%
共感度3	15	11.81%
共感度4	40	31.50%
共感度5 (高)	69	54.33%
合計	127	100%



## 【前頁からの続き】

### ■補足説明(使用する場面や欲しい機能、サポート等)

- 利用者を支える際、揺れないなどの安定性があるもの。
- 機器自体が倒れないつくり。
- しっかりと効き、簡単に操作ができるブレーキ機能。

### 移乗・入浴介助時にあればよい機能やサポート

あれば助かる機能やサポート5

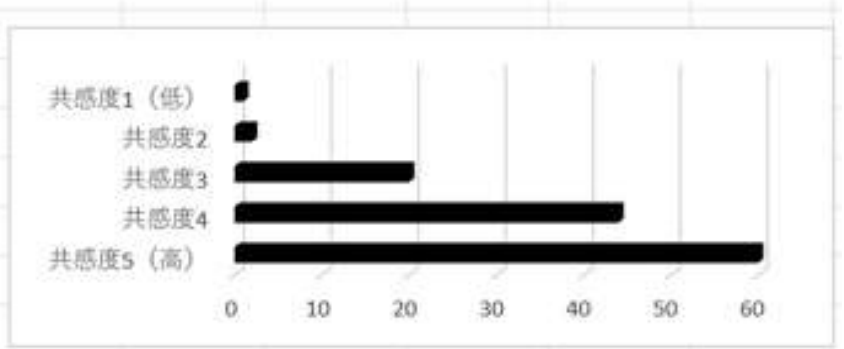
## 移動性

### ■該当アンケート調査結果

Q : 移動性が高いもの

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	1	0.79%
共感度2	2	1.57%
共感度3	20	15.75%
共感度4	44	34.65%
共感度5 (高)	60	47.24%
合計	127	100%



### ■補足説明(使用する場面や欲しい機能、サポート等)

- 移動時にすぐに移動可能なつくりになっており、少ない力で移動音が静かなもの。
- 長距離の移動でも利用者が安定した姿勢を保持できるもの

### 移乗・入浴介助時にあればよい機能やサポート

あれば助かる機能やサポート6

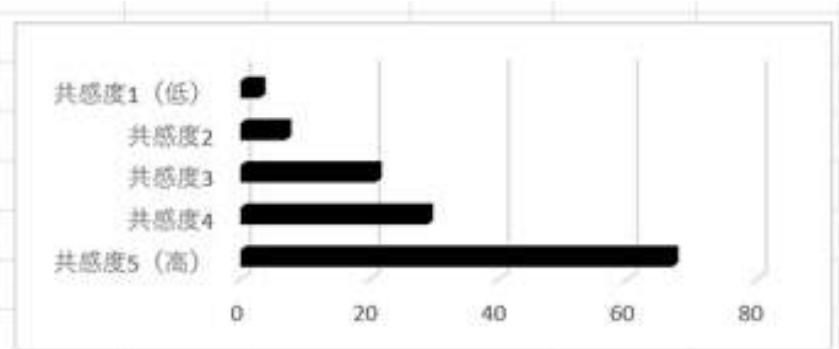
## 見守り機能

### ■該当アンケート調査結果

Q : 浴槽に顔が浸かる等危険な状態を察知し知らせてくれる見守り機能。

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	3	2.36%
共感度2	7	5.51%
共感度3	21	16.54%
共感度4	29	22.83%
共感度5 (高)	67	52.76%
合計	127	100%



## 【前頁からの続き】

### ■補足説明(使用する場面や欲しい機能、サポート等)

- 入浴中は常時見守りを行っているが、補助的にそのような機能が備わっており、アラーム等で知らせてくれる機能があれば介助者側の精神的負担も軽減できる。
- 危険を察知し自動で湯を排出する機能。

### 移乗・入浴介助業務における困りごと・負担箇所

介護ロボットを開発する皆さまへ現場からのメッセージ

**ホールド性に優れていることと、安全機能を備えることで職員の腰部負担軽減が図れ、同時に利用者が安心して入浴できます。**

業務の重要性	入浴の目的は、皮膚を清潔にすることで感染症などの予防効果のほか、血行を促進させ健康的な体づくりにも役立ちます。また、特にラックス効果が見込まれ、身体の緊張がほどけ、気分が良くなります。 反面、介助する側にとっては危険と隣り合わせの業務であり、注意が必要となることが多い業務となります。
業務の危険性	転倒、転落、溺れ、火傷、皮膚トラブル、ヒートショック現象など
業務中のヒヤリハット・困りごと	○シャワーチェアからのずり落ち、傾き。 ○座位不安定により、身体をぶつけてしまう。 ○体が浮いてしまう、顔がお湯につきそうになる。
業務中に職員が確認しているポイント	○滑る箇所はないか。 ○室温及び湯温は適温であるかどうか。 ○摩擦や圧迫等により内出血や皮膚剥離などはないか。 ○身体状況の異常はないか(体調の変化、皮膚疾患の有無など)。 ○浴槽内で溺れそうになっていないか。 ○安定した姿勢で入浴しているか。

## 【前頁からの続き】

介護ロボットを開発する皆さまへ **現場からのメッセージ**

負担軽減をはかるための工夫や取組み・期待する機能や使い方

- 身体に合わせて形状を記憶するクッション。
- 座位を自動補正する椅子型の機器。
- 座位が保てないことを事前に教えてくれるロボット。

報告:見守り業務における「困りごと・負担箇所」調査研究  
(チーム名: 守護神)

氏名	所属施設
■戸嶋 靖浩	良宝園
★藤野 陽介	太行路
杉浦 佑介	ご福あげお
荒瀬 裕一	見沼緑水苑

■ = 担当役員 ★ = チームリーダー

### ■ アンケート項目の設定にあたって

・アンケートを実施するにあたり、各介護業務において困り事や負担を感じる場面や対象を設定し項目を設定しました。

### ■ 見守り業務における場面・対象設定およびアンケート項目

< 設定した介護業務場面や対象 >

・夜間ベッドから転落リスクのある方の見守り

< アンケート項目 >

① 負担に感じる介助場面とあればよい機能やサポート

ポイント	設問主旨	平均共感度
個別性	個別に見守っているポイントが異なる(Aさんは離床時、Bさんは起上り時など)。	4.18
	個別に合わせた見守りをサポートしてくれる機能	4.45
居室内の様子	居室内から何かしらの物音がしないか常に注意している。	4.12
	行動や物音を知らせてくれる機能。	4.25
行動パターンの把握	夜間、居室内での行動パターン・習慣がわからない。	3.75
	行動パターンを予測してくれる機能。	4.04
安否確認	巡視することで起こしてしまう利用者がある。	3.75
安眠提供	介助中の職員へのセンサー検知を防ぐための電源オフ、終了後の電源オン。	3.45
	介助に入る職員を認識して介助中だけセンサーが自動でOFFになる機能。	4.10

<アンケート項目>

②夜間の見守り時にあればよい機能やサポート

ポイント	設問主旨	平均共感度
安全確保	転落を防止してくれる機能。	4.43
居室内の様子	各種センサーの検知記録が自動で介護ソフトの経過記録に記録される機能。	4.12

◇介護ロボットを開発する皆さまへ“現場からのメッセージ”（詳細はP61～）

◎個別にその方に合わせた反応ができる仕様や設定が可能。

その方に合わせた個別対応できる機能になっていると、訪問回数の減少、介護負担の軽減となります。又、介護ソフト（複数社対応）に行動記録入力、データ分析ができると、より使い勝手のよいものになります。

◎誤検知の少ない機器

長い間、感圧式を使用してきた現場としては、ただ寝返りをしただけで発報する、いわゆる“誤報”が多く、初めのうちは職員もすぐに駆け付けていますが、誤報が多い方だと「また鳴ってる、どうせいつもの寝返りでしょ」と慣れてしまい、本当に必要な時に駆け付けられなかったという苦い経験をしてきました。“誤検知”の少ない機器があれば大いに職員の負担が軽減されます。

◎介護システムとの連動

基本的な見守りセンサーとしての安全性と業務省略ができるポイントを明確にし、介護現場においてシステムの理解力を向上させることより、初めて業務効率の成果を上げることが可能となります。加えて介護システムとの連動を図ることで、さらなる業務の効率化が期待できます。

夜間見守り業務における困りごと・負担箇所

ポイント1

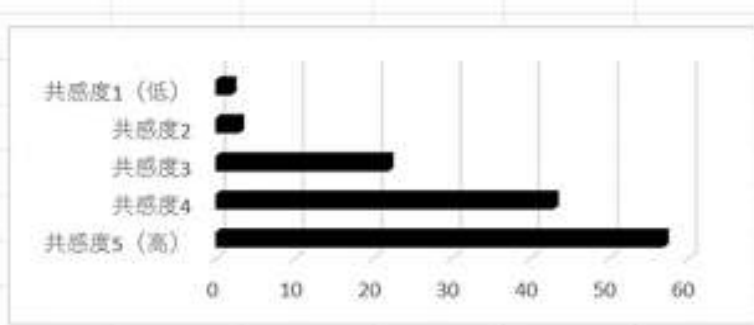
個別性

■該当アンケート調査結果

Q：個別に見守っているポイントが異なる（Aさんは離床時、Bさんは起上り時など）ことに負担を感じる。

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1（低）	2	1.57%
共感度2	3	2.36%
共感度3	22	17.32%
共感度4	43	33.86%
共感度5（高）	57	44.88%
合計	127	100%





## 見守り業務における困りごと・負担箇所

### 【続き】ポイント1

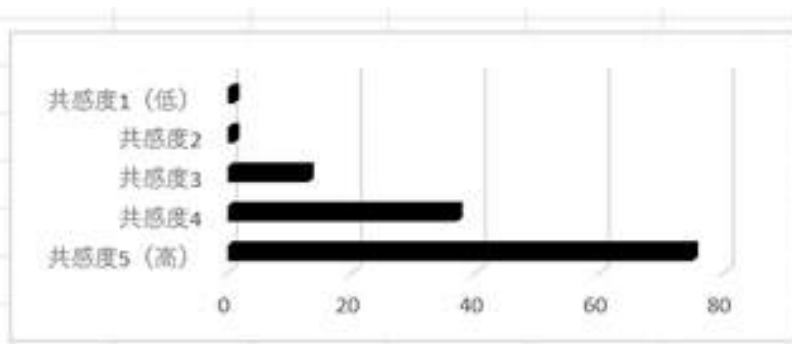
### 個別性

#### ■該当アンケート調査結果

Q：個別に合わせた見守りをサポートしてくれる機能

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1（低）	1	0.79%
共感度2	1	0.79%
共感度3	13	10.24%
共感度4	37	29.13%
共感度5（高）	75	59.06%
合計	127	100%



#### ■個別に見守ることができないために起こったヒヤリハット・困りごと事例

- 他の利用者対応をしている間の転倒/転落。
- 物音により気が付く状況。
- 寝返りだけで反応してしまい、都度確認に行く手間。
- 数種類の機種を同時に使用していると操作ミス(スイッチ入れ忘れ)等が起こる。
- 個室の為、転倒、転落の状況確認に時間を要する。
- 離床センサーの断線により、センサーが発報されなかった。

#### ■個別に見守るための工夫・取組み・欲しい機能

- 危険を伴う時にスマホ等へ連絡し、映像で状況確認ができる。
- 個別に合わせた状況でセンサーが反応し知らせてくれる。
- ナースコール基盤を変更しなくても使用できるセンサー。
- 赤外線、感圧式、AI機能が一体となった機器。
- 個別に異なる発報音が設定できる機能。
- 見守りセンサーの機能により、ベッド上の睡眠業況が把握できる。
- 見守りセンサーにより、個別の反応速度の設定ができる。

## 夜間見守り業務における困りごと・負担箇所

### ポイント2

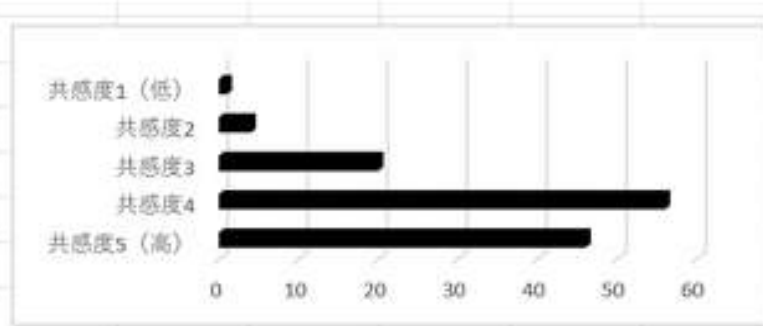
### 居室内の様子

#### ■該当アンケート調査結果

Q：居室内から何かしらの物音がしないか常に注意していることに負担を感じる

【集計・分布】

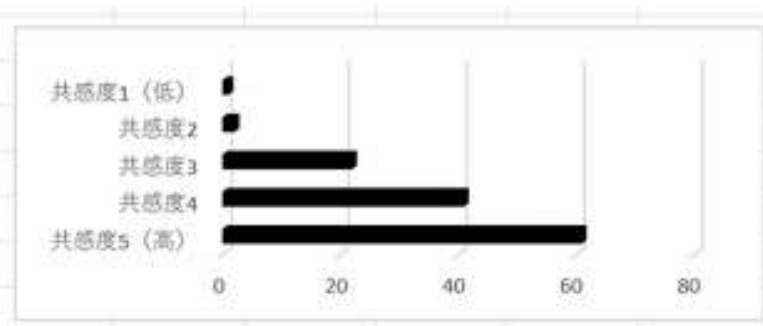
	回答数	分布率
共感度1 (低)	1	0.79%
共感度2	4	3.15%
共感度3	20	15.75%
共感度4	56	44.09%
共感度5 (高)	46	36.22%
合計	127	100%



Q：行動や物音を知らせてくれる機能

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	1	0.79%
共感度2	2	1.57%
共感度3	22	17.32%
共感度4	41	32.28%
共感度5 (高)	61	48.03%
合計	127	100%



#### ■居室内の様子が分からないために起こったヒヤリハット・困りごと事例

- どのような行動を取ったかわからずベッドからトイレへ座っている。
- ベッドから床に座位。
- ベッドの下でずっている状況。

#### ■居室内の様子を知るための工夫・取組み・欲しい機能

- センサー反応時、手元(スマホ)、パソコンで映像がわかる。
- 赤外線、カメラ等での動作検知機能。
- 移動を検知してスマホに発報。

## 夜間見守り業務における困りごと・負担箇所

### ポイント3

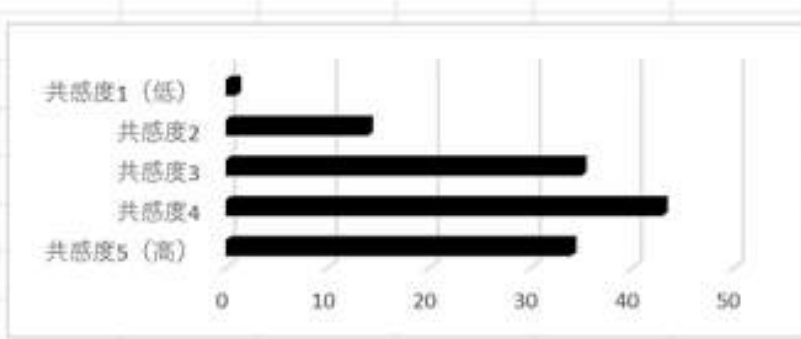
### 行動パターンの把握

#### ■該当アンケート調査結果

Q：夜間、居室内での行動パターン・習慣がわからないことに負担を感じる。

【集計・分布】

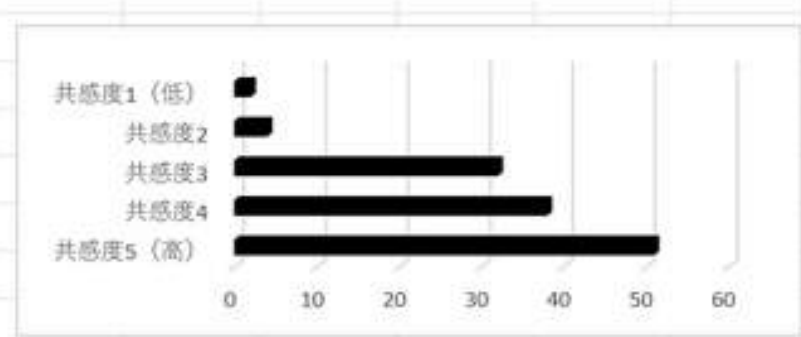
	回答数	分布率
共感度1（低）	1	0.79%
共感度2	14	11.02%
共感度3	35	27.56%
共感度4	43	33.86%
共感度5（高）	34	26.77%
合計	127	100%



Q：行動パターンを予測してくれる機能

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1（低）	2	1.57%
共感度2	4	3.15%
共感度3	32	25.20%
共感度4	38	29.92%
共感度5（高）	51	40.16%
合計	127	100%



#### ■行動パターンがわからないために起こったヒヤリハット・困りごと事例

- いつの間にかベッドからトイレに行っていた。
- いつの間にかベッドサイドに立っていた。
- 新規入居者の夜間トイレに起きる時間がわからず転倒。
- 排便のタイミングがわからず、排便をしているのか便秘になっているのか不明なままな事があった。
- 新規利用者の夜間帯の排泄パターンがつかめず、1人でトイレに行っていた。

#### ■行動パターンを知るための工夫・取組み・欲しい機能

- 行動の予兆を判断し、職員に知らせてくれる。
- 行動記録データシステム。
- トイレに排便の有無を知らせるセンサー。
- 起床したことをスマホに発報。

## 夜間見守り業務における困りごと・負担箇所

### ポイント4

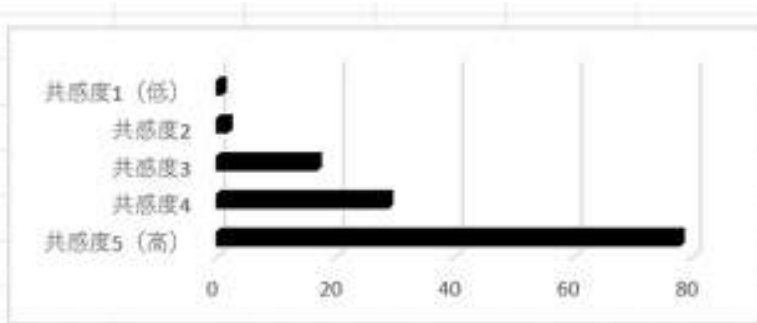
### 安否確認

#### ■該当アンケート調査結果

Q： 巡視することで起こしてしまう利用者があることに負担を感じる。

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	1	0.79%
共感度2	2	1.57%
共感度3	17	13.39%
共感度4	29	22.83%
共感度5 (高)	78	61.42%
合計	127	100%



#### ■巡視によって起こしてしまったために発生したヒヤリハット・困りごと事例

- その後寝られなくなったことによる行動。
- 夜間居室内に侵入する事を嫌がり、鍵やつかえ棒でドアを開かなくしてしまった方がいた。
- 巡視する職員の姿に驚き、その後落ち着かなくなってしまう方がいた。
- 睡眠状況がつかめず、睡眠中起こしてしまう。

#### ■巡視の際に起こさないための工夫・取組み・欲しい機能

- 心拍、血圧、脈拍等が記録と共に睡眠状況がわかる。
- 訪室が不要となる機能。
- 睡眠状況が把握できる。
- 起床したことをスマホに発報。

## 夜間見守り業務における困りごと・負担箇所

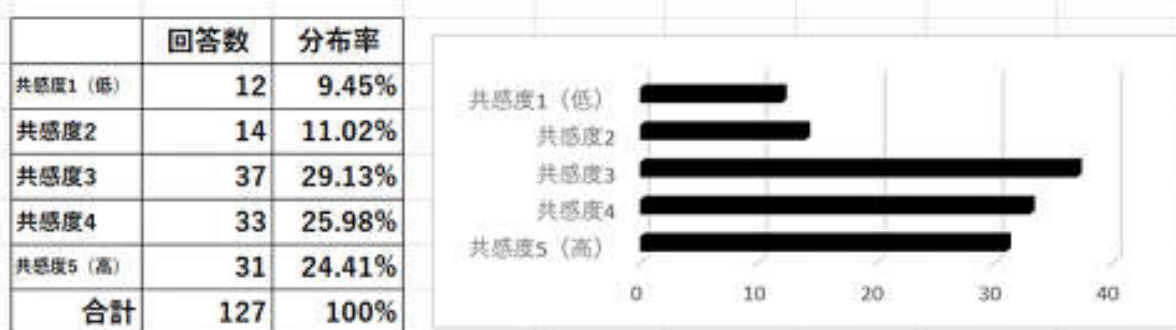
### ポイント5

### 安眠提供

#### ■該当アンケート調査結果

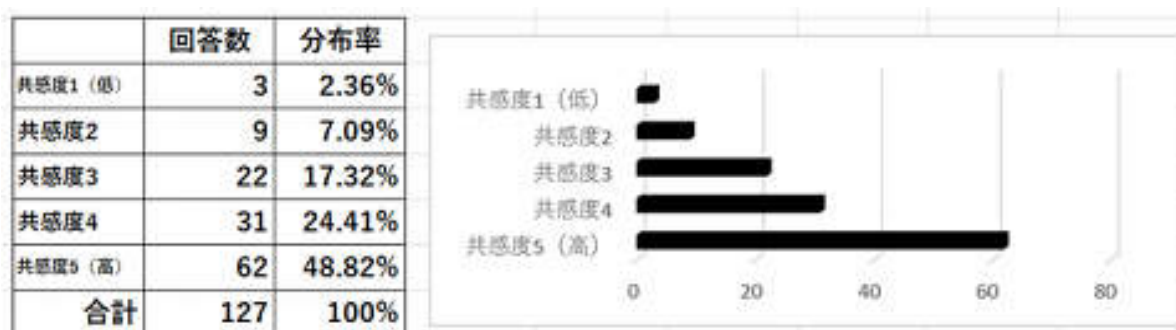
Q： 介助中の職員へのセンサー検知を防ぐための電源オフ、終了後の電源オンすることに負担を感じる。

【集計・分布】



Q： 介助に入る職員を認識して介助中だけセンサーが自動でOFFになる機能。

【集計・分布】



#### ■安眠を提供しようとして発生したヒヤリハット・困りごと事例

- センサーが発する点滅表示が気になり眠れない。
- センサー検知電源のオン・オフ作業の音で目覚めさせてしまう。
- センサーが稼働している音が気になり安眠の妨げになる。

#### ■安眠を提供するための工夫・取組み・欲しい機能

- 声掛けせずに入眠確認ができる機能。
- センサー自身から光が出ないような工夫。
- センサーを気にならないレベルまでに小さくする。

## 夜間見守り時にあればよい機能やサポート

あれば助かる機能やサポート1

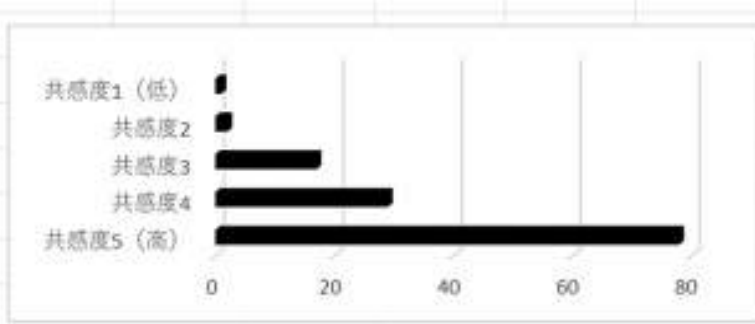
安全確保

### ■該当アンケート調査結果

Q：転落を防止してくれる機能。

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	1	0.79%
共感度2	2	1.57%
共感度3	17	13.39%
共感度4	29	22.83%
共感度5 (高)	78	61.42%
合計	127	100%



### ■補足説明(使用する場面や欲しい機能、サポート等)

- 必要最低限の巡視にするために、観察が出来て、必要に応じて、映像で確認ができる。行動の状況により「お待ちください。」など利用者へ声をかけてくれる。
- 夜間居室での転倒が多く発生してしまうのが現状。職員の配置も少なくなる夜間にいち早く発報が届き、駆け付けられる事が転倒防止につながります。
- 見守り機能にAIを導入し、必要な報告だけ絞って連絡をくれる機能。

## 夜間見守り時にあればよい機能やサポート

あれば助かる機能やサポート2

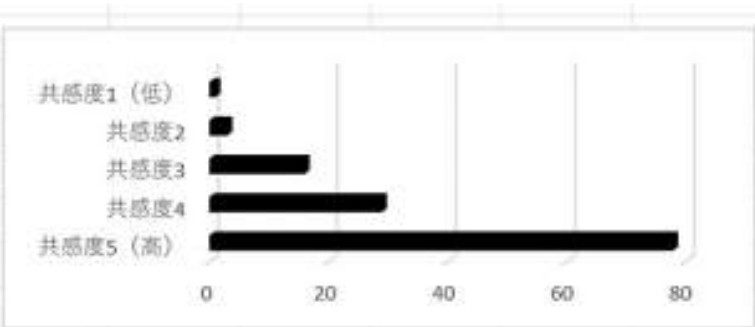
生産性向上

### ■該当アンケート調査結果

Q：各種センサーの検知記録が自動で介護ソフトの経過記録に記録される機能してくれる機能。

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	1	0.79%
共感度2	3	2.36%
共感度3	16	12.60%
共感度4	29	22.83%
共感度5 (高)	78	61.42%
合計	127	100%



## 【前頁からの続き】

### ■補足説明(使用する場面や欲しい機能、サポート等)

- 行動が介護ソフトへ自動で入力され、必要に応じて補足入力ができること、記録入力の負担軽減ができる(介護職員が残業となる大きな要因が記録作業であるため)。  
センサー検知の度に記入はできず、まとめて記入するにしても記憶が曖昧になり思い出し作業をすることになるので、誤報を自動記入から簡単に削除できる機能があれば大変助かる。
- 見守り機能にAIを導入し、必要な報告だけ絞って連絡をくれる機能。

## 夜間見守り業務における困りごと・負担箇所

### 介護ロボットを開発する皆さまへ現場からのメッセージ

◎個別にその方に合わせた反応ができる仕様や設定が可能。  
その方に合わせた個別対応できる機能になっていると、訪問回数の減少、介護負担の軽減となります。又、介護ソフト(複数社対応)に行動記録入力、データ分析ができると、より使い勝手のよいものになります。

### ◎誤検知の少ない機器

長い間、感圧式を使用してきた現場としては、ただ寝返りをうっただけで発報する、いわゆる“誤報”が多く、初めのうちは職員もすぐに駆け付けていますが、誤報が多い方だと「また鳴ってる、どうせいつもの寝返りでしょ」と慣れてしまい、本当に必要な時に駆け付けられなかったという苦い経験をしてきました。“誤検知”の少ない機器があれば大いに職員の負担が軽減されます。

### ◎介護システムとの連動

介護ソフトとの連動による記録業務の簡素化、AIによる見守り機能レベルの向上、AIによる睡眠についての状況把握がさらに進むと良いと考えております。また、色々な機能がワンストップで使えるように横の連動が図れるとより良いと考えます。

【前頁からの続き】

介護ロボットを開発する皆さまへ現場からのメッセージ

<p>業務の重要性</p>	<p>夜間の居室はヒヤリハットが起きやすい環境でありながら、常時、監視していることが難しい状況にあります。施設利用者は、何らかの疾病を抱え、守るべきことが多くあります。転倒/転落の事故や生命を左右する状況に至ることもありますので、巡視は必要不可欠な業務です。転倒が起こるとほとんどの高齢者は骨折をしてしまいます。</p> <p>温存療法・手術どちらにしても入居者は苦しみ、家族の心配は尽きる事はありません。我々介護職員はこのような事が起こらないよう毎日注意をし、大切に入居者をお預かりしておりますが、介護職員不足による見守りが不十分な為の転倒という残念な結果が起きてしまっているのが現状です。</p> <p>如何に転倒を未然に防ぎ、安全なサービスが提供できるか介護ロボットに期待を寄せるところです。</p>
<p>業務の危険性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転倒/転落がないか、状態変化がないか巡視しているので、常に危険があると共に、他利用者に対応中に、他で危険な状況が生じるので常に危険と隣り合わせである。</li> <li>・発報を確認した職員が焦ってしまい重要な介助中であっても意識がそちらへ向かってしまい、介護事故が起こる事も想定される。</li> </ul>
<p>業務中のヒヤリハット・困りごと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の利用者対応をしている間の転倒/転落(再掲)。</li> <li>・寝返りだけで反応してしまい、都度確認に行く手間(再掲)。</li> <li>・いつの間にかベッドからトイレに行っていた(再掲)。</li> <li>・巡視する職員の姿に驚き、その後落ち着かなくなってしまう方がいた(再掲)。</li> <li>・センサーが発する点滅表示が気になり眠れない(再掲)。</li> </ul>



## 【前頁からの続き】

介護ロボットを開発する皆さまへ **現場からのメッセージ**

<p>業務中に職員が確認しているポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ベッド上の動きがあるかどうか。呼吸状態、発熱状況の観察および入眠確認。</li><li>・発報された時にどこの場所からなのかを一番に確認します。発報を確認したものが、今その場を離れられなければ他の職員へ応援を頼みますが、声の届く範囲にいない場合もあります。そうすると対応が遅れ、間に合わず転倒事故が起きてしまうことがあります。</li></ul>
<p>負担軽減をはかるための工夫や取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・物音にすぐに気付けるような位置で仕事をしている。</li><li>・睡眠を妨げないために物音をたてないように居室巡視を行う。</li><li>・常に他フロアーの夜勤職員と連絡がとれるようにしている。</li></ul>
<p>期待する機能や使い方</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・個別に合わせた状況でセンサーが反応し知らせてくれる(再掲)。</li><li>・行動の予兆を判断し、職員に知らせてくれる(再掲)。</li><li>・トイレに排便の有無を知らせるセンサー(再掲)。</li><li>・センサーを気にならないレベルまでに小さくする(再掲)。</li><li>・行動が介護ソフトへ自動で入力され、必要に応じて補足入力ができる、記録入力の負担軽減ができる(介護職員が残業となる大きな要因が記録作業であるため)(再掲)。</li></ul>

## 報告:排泄介助業務における「困りごと・負担箇所」調査研究

(チーム名: スッキリ21)

氏名	所属施設
■戸山 文洋	見沼緑水苑
★市川 将史	かがやき
酒本 隆敬	杏樹苑 爽風館
井橋 興蔵	キャンベルホーム

■ = 担当役員 ★ = チームリーダー

### ■ アンケート項目の設定にあたって

・アンケートを実施するにあたり、各介護業務において困り事や負担を感じる場面や対象を設定し項目を設定しました。

### ■ 排泄介助業務における場面・対象設定およびアンケート項目

< 設定した介護業務場面や対象 >

・ベッド上でオムツ交換を実施する方の排泄介助

< アンケート項目 >

① 負担に感じる介助場面とあればよい機能やサポート

ポイント	設問主旨	平均共感度
ベッドの高さ	ベッドの適正な高さ調節。	3.77
	ボタンを1度押すだけで5段階程度に高さが変わるベッド機能。	3.76
衣類着脱・体位変換	交換時の衣類着脱と体位変換。	3.92
	自動で体位変換をサポートしてくれるベッド機能。	4.07
洗浄	洗浄と清拭。	3.86
	陰部や臀部洗浄の際に体位変換を支えてくれる機能。	4.03
	洗浄用の微温湯を適切な温度と水量で用意してくれる機器。	3.91
	部分(陰部等)洗浄用の自動シャンプー機器。	3.68
アイテム選択	適切なアイテムの選定。	3.54
臭気	使用済みアイテムの処理と匂いの消臭。	3.64
	使用済みアイテムを入れると臭気を防いでパックしてくれる機器。	4.00

【続き】

<アンケート項目>

①負担に感じる介助場面とあればよい機能やサポート

ポイント	設問主旨	平均共感度
重複時の対応	介助中に他の方からのナースコールの受理応答。	4.28
	他職員へ速やかに連絡可能なインカム等の機器。	3.98

<アンケート項目>

②ベッド上でオムツ交換を実施時にあればよい機能やサポート

ポイント	設問主旨	平均共感度
自動計測	排尿量(cc)や排便量(g)等の排泄量を計測できる機能。	4.13
居室内の様子	支援中に受けたナースコール先と動画で繋がり受理応答できる機能。	3.95

◇介護ロボットを開発する皆さまへ“現場からのメッセージ”(詳細はP73~)

排泄ケアで発生する重複ケアを軽減できる機器があれば、介護職員の負担軽減とご利用者の快適・安全の両立が実現できます。

ベッド上でのオムツ交換業務における困りごと・負担箇所

ポイント1

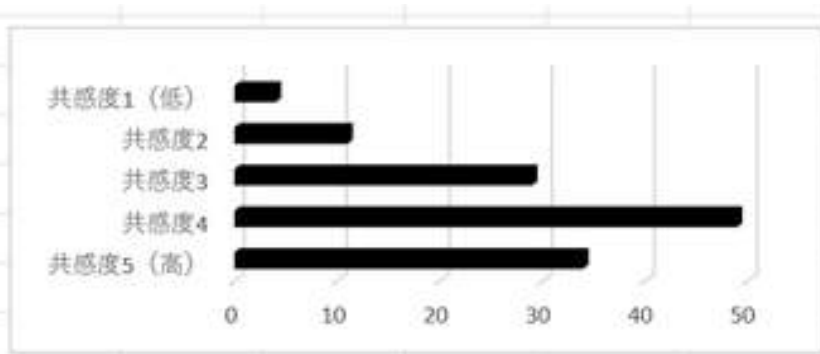
ベッドの高さ

## ■該当アンケート調査結果

Q : ベッドの適正な高さ調節することに負担を感じる。

【集計・分布】

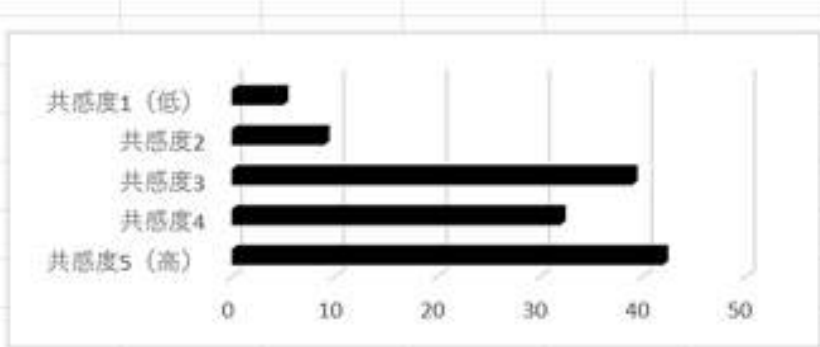
	回答数	分布率
共感度1 (低)	4	3.15%
共感度2	11	8.66%
共感度3	29	22.83%
共感度4	49	38.58%
共感度5 (高)	34	26.77%
合計	127	100%



Q : ボタンを1度押すだけで5段階程度に高さが変わるベッド機能。

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	5	3.94%
共感度2	9	7.09%
共感度3	39	30.71%
共感度4	32	25.20%
共感度5 (高)	42	33.07%
合計	127	100%



## ■ベッドの適正な高さ調節しなかったために起こったヒヤリハット・困りごと事例

- 介護職員の腰痛の発生。
- ベッドからの転倒、転落。
- 昇降時間がかかる事から実施せず、無理な体制による不適切ケア。

## ■ベッドの適正な高さ調節するための工夫・取組み・欲しい機能

- 個別に適正位置を設定・記憶し、オートで昇降する機能。
- 昇降時や危険を感知した際のアラート機能。
- 声や足等、手を使わずに昇降操作ができる機能。

## ベッド上でのオムツ交換業務における困りごと・負担箇所

### ポイント2

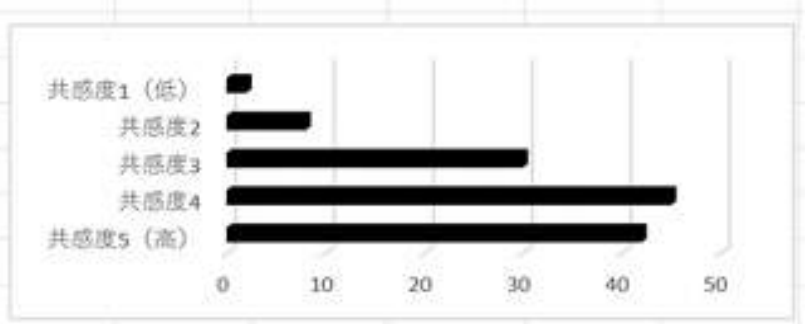
### 衣類着脱・体位変換

## ■該当アンケート調査結果

Q：交換時の衣類着脱と体位変換に負担を感じる。

【集計・分布】

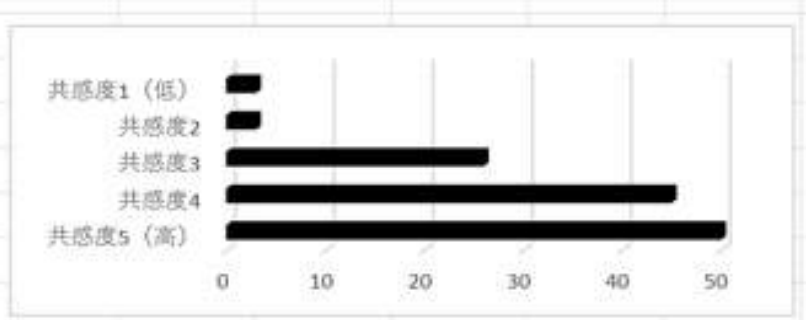
	回答数	分布率
共感度1 (低)	2	1.57%
共感度2	8	6.30%
共感度3	30	23.62%
共感度4	45	35.43%
共感度5 (高)	42	33.07%
合計	127	100%



Q：自動で体位変換をサポートしてくれるベッド機能。

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	3	2.36%
共感度2	3	2.36%
共感度3	26	20.47%
共感度4	45	35.43%
共感度5 (高)	50	39.37%
合計	127	100%



## ■交換時の衣類着脱と体位変換に関するヒヤリハット事例や困りごと

- 漏れや不穩、弄弁による衣類やリネン類の汚染、交換。
- 体位変換時の体位不安定により怪我のリスクがある。
- 体位変換した姿勢が適切に維持されず、除圧されていない。

## ■交換時の衣類着脱と体位変換を円滑に行うための工夫・取組み・欲しい機能

- アイテム交換時にご利用者の体を支えてくれる機能。
- 体位変換を自動で行ってくれる機能。
- ベッドマットレスと身体の間空間を作り交換しやすくする機能。

### ベッド上でのオムツ交換業務における困りごと・負担箇所

## ポイント3

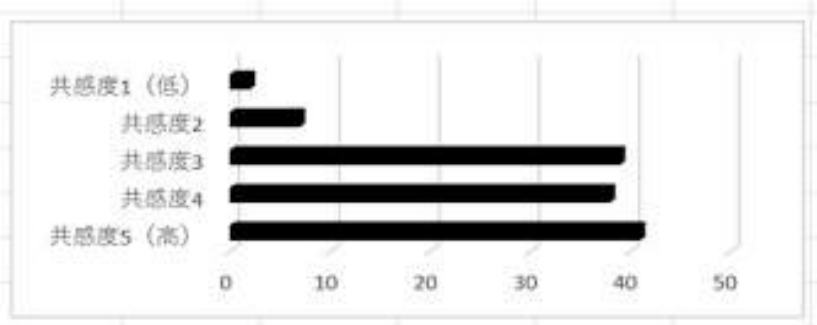
## 洗 浄

### ■該当アンケート調査結果

Q : 洗浄と清拭に負担を感じる。

【集計・分布】

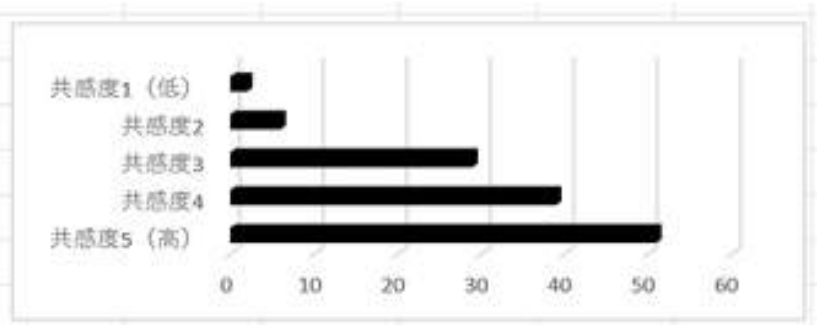
	回答数	分布率
共感度1 (低)	2	1.57%
共感度2	7	5.51%
共感度3	39	30.71%
共感度4	38	29.92%
共感度5 (高)	41	32.28%
合計	127	100%



Q : 陰部や臀部洗浄の際に体位変換を支えてくれる機能。

【集計・分布】

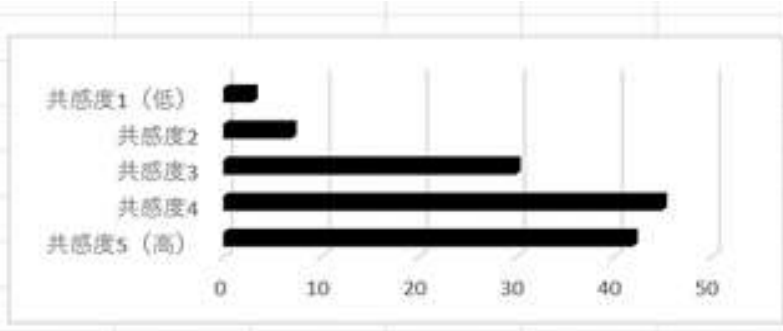
	回答数	分布率
共感度1 (低)	2	1.57%
共感度2	6	4.72%
共感度3	29	22.83%
共感度4	39	30.71%
共感度5 (高)	51	40.16%
合計	127	100%



Q : 洗浄用の微温湯を適切な温度と水量で用意してくれる機器。

【集計・分布】

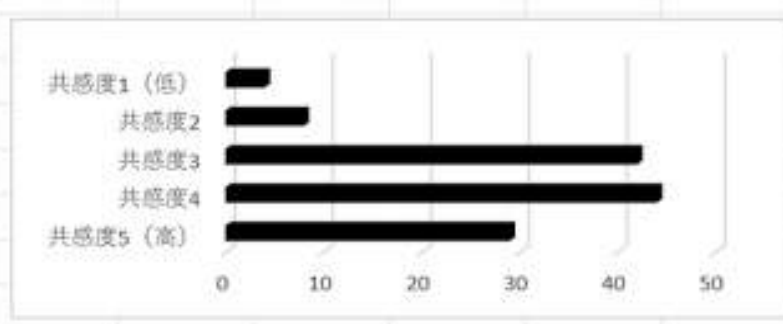
	回答数	分布率
共感度1 (低)	3	2.36%
共感度2	7	5.51%
共感度3	30	23.62%
共感度4	45	35.43%
共感度5 (高)	42	33.07%
合計	127	100%



Q : 部分(陰部等)洗浄用の自動シャンプー機器。

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	4	3.15%
共感度2	8	6.30%
共感度3	42	33.07%
共感度4	44	34.65%
共感度5 (高)	29	22.83%
合計	127	100%



### ■ 洗浄に関するヒヤリハット事例や困りごと

- 微温湯の準備に時間がかかる事と、使用中に冷めてしまう事。
- 洗浄水があふれ、汚物飛散等により衛生管理が甘くなる。
- 体位維持が難しく、洗い難さからきれいに洗浄できない。

### ■ 洗浄を円滑に行うための工夫・取組み・欲しい機能

- 適温、適量の微温湯を簡単に用意でき、保温できる機能。
- 皮膚への負担なく汚れが落とせるオートシャンプー機能。
- 汚染水を適切に処理できる吸引可能な差し込み型便器。

## ベッド上でのオムツ交換業務における困りごと・負担箇所

### ポイント4

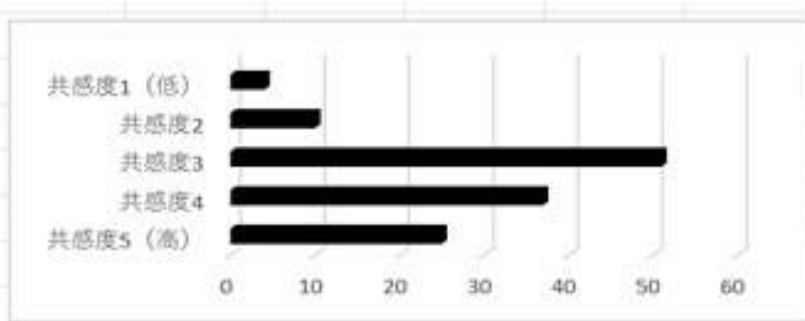
### 適切なアイテムの選定

#### ■該当アンケート調査結果

Q：交換時の適切なアイテムの選定に負担を感じる。

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	4	3.15%
共感度2	10	7.87%
共感度3	51	40.16%
共感度4	37	29.13%
共感度5 (高)	25	19.69%
合計	127	100%



#### ■交換時に適切なアイテムが選定できないと発生するヒヤリハット事例や困りごと

- 尿漏れ等による衣類交換等の二次的業務の発生。
- スレや違和感による不快感や擦過傷、褥瘡の発生。
- オーバースパックのアイテム選定による経費面の負担増。

#### ■交換時に適切なアイテム選定を円滑に行うための工夫・取り組み・欲しい機能

- 排尿量や排便量を計測できる機能。
- 排尿や排便を検知し、すぐにお知らせをしてくれる機能。
- アイテム選定のための正しい知識の習得。

## ベッド上でのオムツ交換業務における困りごと・負担箇所

### ポイント5

### 臭気

#### ■該当アンケート調査結果

Q：使用済みアイテムの処理と匂いの消臭に負担を感じる。

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	4	3.15%
共感度2	14	11.02%
共感度3	38	29.92%
共感度4	39	30.71%
共感度5 (高)	32	25.20%
合計	127	100%

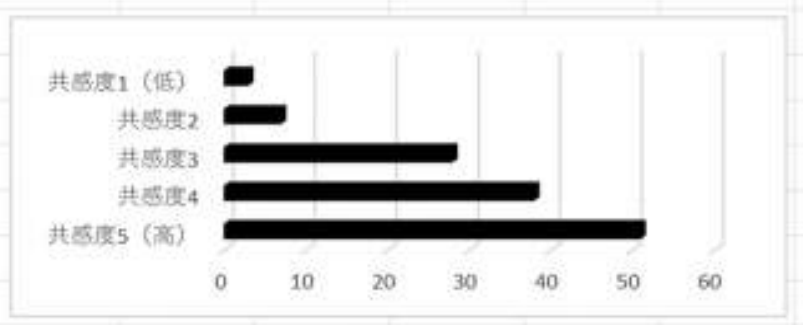


## ■該当アンケート調査結果

Q：使用済みアイテムを入れると臭気を防いでパックしてくれる機器。

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1（低）	3	2.36%
共感度2	7	5.51%
共感度3	28	22.05%
共感度4	38	29.92%
共感度5（高）	51	40.16%
合計	127	100%



## ■交換時の臭気に関するヒヤリハット事例や困りごと

- 共有スペースや隣室に広がる臭い。
- 他のご利用者様に不快な思いをさせてしまう。
- 染み付いた臭気がなかなか消えない。

## ■交換時の臭気を軽減するための工夫・取組み・欲しい機能

- 臭気を広げず、運べる処理ボックス。
- ボタン一つで直ぐに空気清浄や元から臭いを分解する装置。
- 洗濯不可なクッション類を抗菌洗浄する機器。

ベッド上でのオムツ交換業務における困りごと・負担箇所

## ポイント6

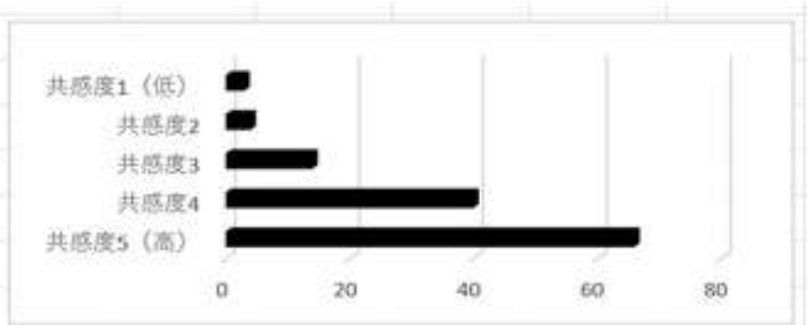
## 重複時の対応

## ■該当アンケート調査結果

Q：介助中に他の方からのナースコールの受理応答。

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1（低）	3	2.36%
共感度2	4	3.15%
共感度3	14	11.02%
共感度4	40	31.50%
共感度5（高）	66	51.97%
合計	127	100%



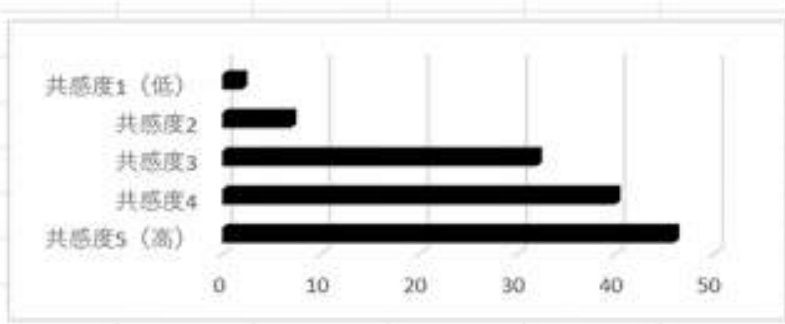


## ■該当アンケート調査結果

Q :他職員へ速やかに連絡可能なインカム等の機器。

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	2	1.57%
共感度2	7	5.51%
共感度3	32	25.20%
共感度4	40	31.50%
共感度5 (高)	46	36.22%
合計	127	100%



## ■交換時に重複対応が発生した場合のヒヤリハット事例や困りごと

- 直ぐに対応出来ない事による転倒などの危険性。
- 汚物処理中にPHSやコールボタンを押すことが難しい。
- 作業中断が困難であり、中断した場合に手順の重複がある。

## ■交換時の重複対応が発生した場合の工夫・取組み・欲しい機能

- ヘッドセット等ハンズフリーを可能とする機器。
- 遠隔で利用者の状況を把握し、緊急度を判断できる機能。
- 応援や協力を依頼する事ができる機能。

ベッド上でオムツ交換をする際にあればよい機能やサポート

あれば助かる機能やサポート1

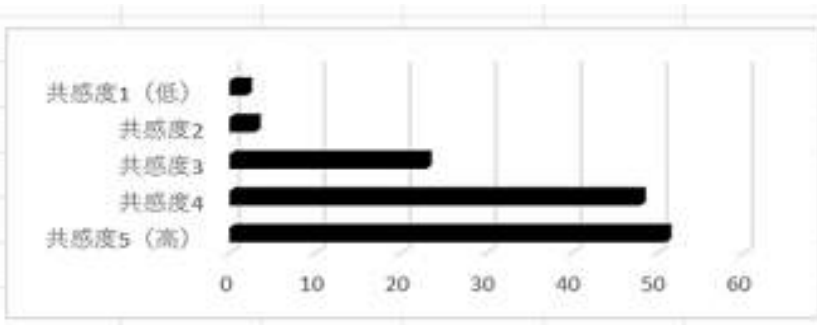
自動計測

## ■該当アンケート調査結果

Q :排尿量(cc)や排便量(g)等の排泄量を計測できる機能。

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	2	1.57%
共感度2	3	2.36%
共感度3	23	18.11%
共感度4	48	37.80%
共感度5 (高)	51	40.16%
合計	127	100%



## <あれば助かる機能やサポート1 自動計測の続き>

### ■補足説明(使用する場面や欲しい機能、サポート等)

- 簡単に装着することで、尿測や排便量、形状を把握、評価できる機能があれば、適切なアイテム選定につながり、介護としての手間や時間をかけずにご利用者への個別対応につながる

ベッド上でオムツ交換をする際にあればよい機能やサポート

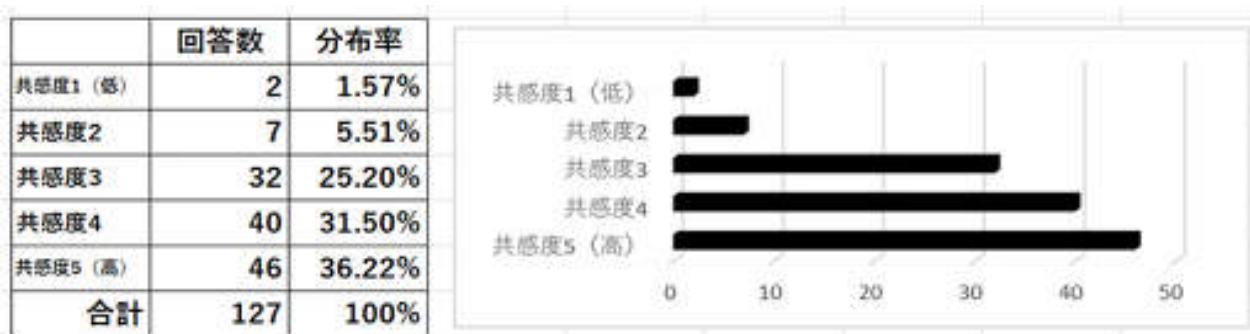
あれば助かる機能やサポート2

連絡・共有

### ■該当アンケート調査結果

Q : 支援中に受けたナースコール先と動画で繋がり受理応答できる機能。

【集計・分布】



### ■補足説明(使用する場面や欲しい機能、サポート等)

- アイテム交換時は、とかく重複ケアに対応する心理的、肉体的負担と不安が大きいため、遠隔でご利用者の状況を把握することや、ハンズフリーで複数の業務を並行して実施できることは、介護現場の生産性を飛躍的に向上させるとともに安全面に効果があり、事故防止にもつながる。

## 排泄介助業務における困りごと・負担箇所

介護ロボットを開発する皆さまへ現場からのメッセージ

**排泄ケアで発生する重複ケアを軽減できる機器があれば、介護職員の負担軽減とご利用者の快適・安全の両立が実現できます。**

<p>業務の重要性</p>	<p>排泄介助は、ご利用者の健康面の維持や快適な生活を送る上で、大変重要な業務ですが、介護未経験者や初任者にとっては抵抗感の強い業務でもあります。</p> <p>また、羞恥心に配慮し、プライバシーの保護が最大限に必要とされるため、個室や仕切りのある場所での介助となり、職員が他の方の様子を把握する事は物理的に不可能になります。</p> <p>どの施設も限られた職員数で介助にあたっているため安全確保が難しく、双方に負担やリスクがない状況を作り出すことは重要であると考えます。</p>
<p>業務の危険性</p>	<p>排泄ケアは個別ケアの為、一人で対応している時間の重複ケアに最も危険度が上がり、清潔を確保してから次の対応までに要する時間や、他職員を探して支援をお願いするタイムロス等も危険性を高くすると考えられます。</p> <p>また、不適切な排泄介助は、ご利用者の自尊心を傷つけ、衛生面が疎かになる事での感染症のリスクも懸念されます</p>
<p>業務中のヒヤリハット・困りごと(再掲)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直ぐに対応出来ない事による転倒などの危険性。</li> <li>・汚物処理中にPHSやコールボタンを押すことが難しい。</li> <li>・作業中断が困難であり、中断した場合に手順の重複がある。</li> </ul>
<p>業務中に職員が確認しているポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄介助前に他の場所にいる入居者の安全確認、リスク軽減</li> <li>・プライバシーの保護、ご利用者の自尊心への配慮</li> <li>・衛生管理の観点から、排泄物の処理や不快感の低減</li> <li>・皮膚トラブルの発生や悪化等、身体状況の確認</li> <li>・他職員の状況確認による協力体制の確保</li> </ul>

【前頁からの続き】

<p>負担軽減をはかるための工夫や取組み・期待する機能(再掲)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ヘッドセット等ハンズフリーを可能とする機器。</li><li>・遠隔で利用者の状況を把握し、緊急度を判断できる機能。</li><li>・応援や協力を依頼する事ができる機能。</li></ul>
-------------------------------------	---

## 報告:コミュニケーションにおける「困りごと・負担箇所」調査研究 (チーム名: 21えもん)

氏名	所属施設
■神谷 敏弘	晴和苑
★大嶋 徹	悠う湯ホーム
加藤 綾	ひらすかの郷
堀 弘尚	ベルホーム
出雲 秀章	まきば園

■ = 担当役員 ★ = チームリーダー

### ■ アンケート項目の設定にあたって

・アンケートを実施するにあたり、各介護業務において困り事や負担を感じる場面や対象を設定し項目を設定しました。

### ■ コミュニケーションにおける場面・対象設定およびアンケート項目

< 設定した介護業務場面や対象 >

・利用者様への声掛け

< アンケート項目 >

ポイント	設問主旨	平均共感度
帰宅願望	サービス利用中に「家に帰りたい」と言われること。	3.81
	帰宅願望の出現や原因予測をしたり、対応を提案してくれるサポート機能。	3.63
入浴拒否	入浴の声かけ時に「入りたくない」と言われること。	3.98
	入浴拒否の出現や原因を予測をしたり、対応を提案してくれるサポート機能。	3.46
聴力が弱い	聴力が弱く他の方とうまくコミュニケーションが取れないこと。	3.67
	聴力の弱さをカバーして周囲の方とのコミュニケーションをサポートしてくれる機能。	3.91
失語症等の対応	失語症などで意思表示ができない方にアプローチすること。	3.76
	失語症の方の意思表示を文章等により円滑にしてくれる機能。	4.01

◇介護ロボットを開発する皆さまへ“現場からのメッセージ”（詳細はP83～）

「温もり・安心感のある、人に寄り添うロボット」

- ・認知症による不安感が大きくなることで、問題行動(帰宅願望・入浴拒否・徘徊等)が出やすくなります。
- ・認知症を患っている方すべてが問題行動を起こすわけではなく個人差があります。
- ・明るくて大らか、穏やかな重度認知症の方も施設には入所されています。
- ・問題行動を起こしてしまう方は、まず表情に変化があります。そして行動に変化が出てきます。心の変化が顔の相に現れ、行動に現れてきます。
- ・私たち介護職員は、そうした方々に安心感を与えることで行動を抑えています。職員の代わりにロボットが行う場合、心の変化を察知できる機能と、安心感を与えられる機能が必要だと思います。

利用者様への声掛けにおける困りごと・負担箇所

ポイント1

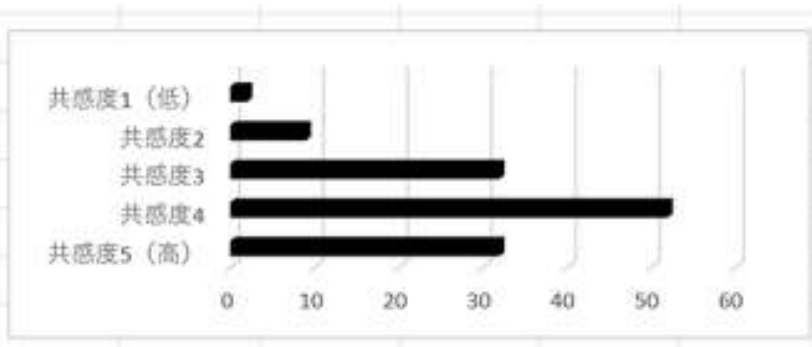
帰宅願望

■該当アンケート調査結果

Q：サービス利用中に「家に帰りたい」と言われること

【集計・分布】

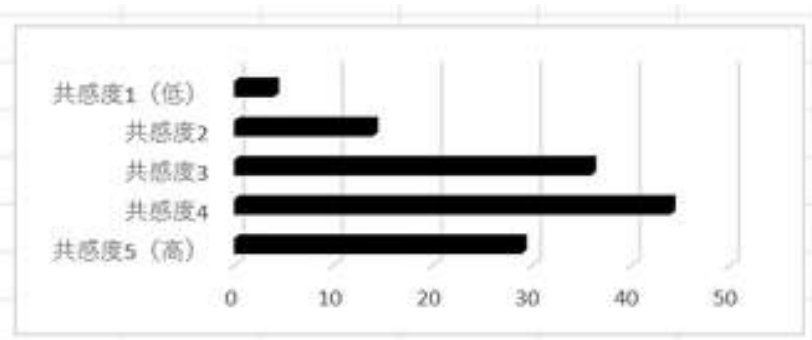
	回答数	分布率
共感度1 (低)	2	1.57%
共感度2	9	7.09%
共感度3	32	25.20%
共感度4	52	40.94%
共感度5 (高)	32	25.20%
合計	127	100%



Q：帰宅願望の出現や原因を予測したり、対応を提案してくれるサポート機能

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	4	3.15%
共感度2	14	11.02%
共感度3	36	28.35%
共感度4	44	34.65%
共感度5 (高)	29	22.83%
合計	127	100%



## ■帰宅願望が発生したことでのヒヤリハット・困りごと事例

- 徘徊時につまづいて転倒してしまう。
- 冬の寒い日に出口を探してバルコニーを周回してしまう。
- エレベーターで他階に行ってしまう。1階へ行き搬入口から離設してしまう。
- 職員が手薄の時に玄関まで行ってしまった。
- 夕方になるとソワソワしたり、玄関から動こうとしない等、その方に掛かり切りになってしまう。
- 玄関から動こうとせず、ずっと居座り職員が付きっきりになる。
- 説得に時間と人手が取られてしまう。
- 身の回りの物を持って外に出ようとされる。
- 玄関先に止まっている車両を見ると玄関に向かって急いで向かっていかれる。
- 暴言、暴力、怪我、器物破損。
- 他利用者への悪影響(不安・帰宅願望)。
- 周囲の方を誘って複数人で帰ろうとされる(帰宅願望が連鎖)。
- しっかり理解できている利用者の帰宅願望への対応に困る。
- ご家族に相談すると本人とご家族の関係が悪化する。

## ■帰宅願望を発生させないための工夫・取組み・欲しい機能

- 帰宅願望は当たり前であり言葉での説得は難しい。(VRのような家に居ると錯覚できるような物があれば)
- 不穏な動きを検知する、声をかけて足を止めさせる。
- 職員が付き添い、話をしながら散歩をする。
- 不安感を取り除き、安心感を利用者に与えてくれる機能。
- 徘徊にとことん付き合ってくれるロボット。
- 話をじっくり聞いて安心させる、入所の経緯を説明する。
- 農業や庭の仕事が好きな方にはお花の剪定や畑仕事を一緒に行う。
- 帰宅願望に向いている利用者の注意を他にそらしてくれる機能。
- 違う話題でコミュニケーションを取りながら気を紛らす。
- 音楽(好みの歌や懐メロなど)を流してリラックスしていただく。または違う事に興味を向けていただく。
- 状況に応じて利用者の好きな曲、画像、話題を提供する機能。
- 本人が夢中になるものを提供する。

## 【前頁からの続き】

### ■帰宅願望を発生させないための工夫・取組み・欲しい機能

- 興味を示す物(動物や人形など癒し効果のある物または、本人の生活歴から好きな物など)を置く。
- ひたすら楽しい時間を過ごしていただく。
- ご家族のボイスメッセージや動画を再生する。

### 利用者様への声掛けにおける困りごと・負担箇所

## ポイント2

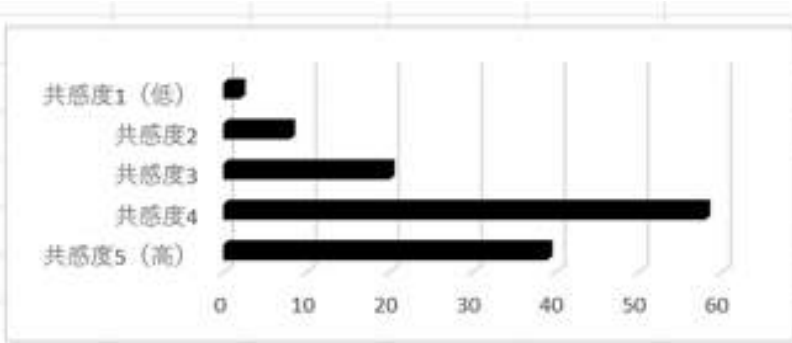
## 入浴の声がけ時に「入りたくない」と言われること

### ■該当アンケート調査結果

Q：入浴の声がけ時に「入りたくない」と言われることが負担を感じる。

【集計・分布】

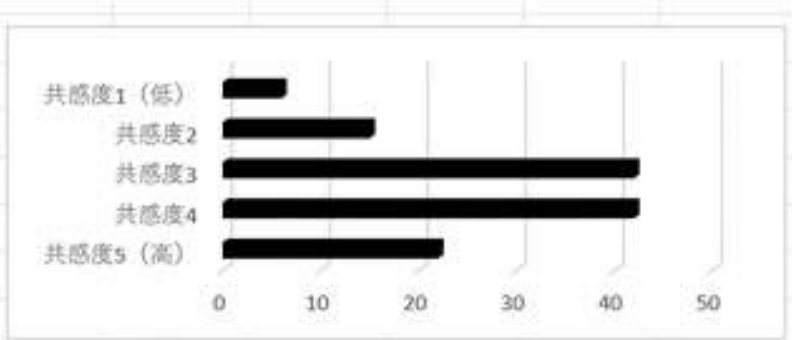
	回答数	分布率
共感度1 (低)	2	1.57%
共感度2	8	6.30%
共感度3	20	15.75%
共感度4	58	45.67%
共感度5 (高)	39	30.71%
合計	127	100%



Q：入浴拒否の出現や原因を予測したり、対応を提案してくれるサポート機能

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	6	4.72%
共感度2	15	11.81%
共感度3	42	33.07%
共感度4	42	33.07%
共感度5 (高)	22	17.32%
合計	127	100%



### ■入浴拒否が発生したことでのヒヤリハット・困りごと事例

- 入浴させるならもう利用しないと大声で言われる。
- 興奮して暴れてしまい職員もしくは利用者が転倒や怪我をする。
- 暴言、暴力、怪我、器物破損。
- 入浴を嫌がり粗暴行為がある。
- 家族の依頼等で無理に入浴させると怪我のリスクが高まる。



## 【前頁からの続き】

### ■入浴拒否が発生したことでのヒヤリハット・困りごと事例

- 説得に時間を要する。時間が取られて他が手薄になる。
- 入浴拒否の利用者に注意を奪われ、他の利用者が浴室で転倒する。
- 他利用者もつられて「私も入らない」と同調してしまう。
- 「入らない」と言い出すと周囲も混乱し始める。「入りたくない」が連鎖してしまう。
- 皮膚観察ができない。
- スタッフのストレス。

### ■入浴拒否が発生した際の工夫・取組み・欲しい機能

- 入浴のハードルを上げない(さりげなく)。
- 時間をおいてリラックスされているなど頃合いを見てお誘いする。
- 汗をかいたので肌着交換を勧める。
- 温かいタオルで肌を拭き気持ちよさを演出してから自然な流れでお誘いする。
- 衣服を脱がずに足浴から勧める。
- 体にタオルをかけて浴室まで案内する。
- 相性の良い(場合によって同性または異性)職員がお誘いする。
- 違う話題でお誘いして着脱室までお連れする。
- 体温の変化で興奮状態を感知する。
- カーテンで仕切り、羞恥心を除去(個室ではなく、集団入浴の浴室環境の場合)。
- その時に出来る対応(清拭、足浴、更衣等)。
- 部分的な洗身ができる機器。
- 入浴の付加価値(温泉、檜風呂)。  
入ってしまうと笑顔で「気持ち良かった」「ありがとう」と言う利用者もいる。入浴のマイナスイメージを払拭させてくれるような(例えば壁面にプロジェクションマッピングで温泉地のイメージを出し、温泉地の効果音を出す等)機能があると面白い。
- 「一緒にお風呂に入ろう」と声をかけてくれる癒し系のぬいぐるみ(防水加工された実際に入浴できる物)。
- リラックスできるような環境作り(BGMを流す、個室のような雰囲気、匂い(入浴剤)、温泉観光などの画像を流す)。
- 落ち着くデザイン、BGM機能のある機器。  
家族とリモートでビデオ通話をしながら一緒に声をかけてもらって入浴を促せる機能。裸体を映してしまわないよう映像を加工する  
※ディープフェイクの技術を使って、必ずしも本物のご家族でなくとも対応できるようにする可能性もある
- 入浴に関する楽しいアクティビティを行う機能。

## 利用者様への声掛けにおける困りごと・負担箇所

### ポイント3

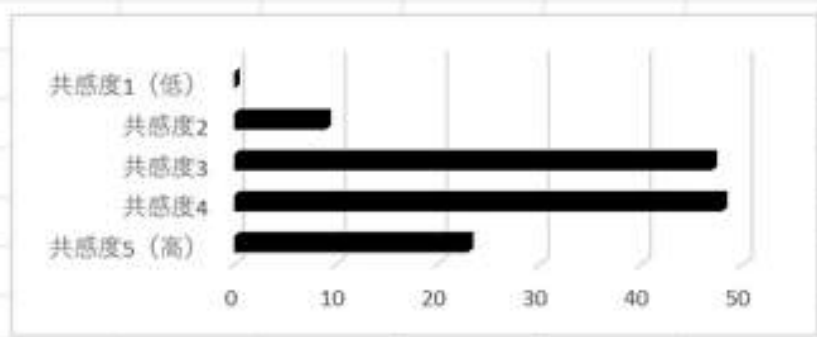
### 聴力が弱い

#### ■該当アンケート調査結果

Q：聴力が弱く、他の方とうまくコミュニケーションが取れないこと。

【集計・分布】

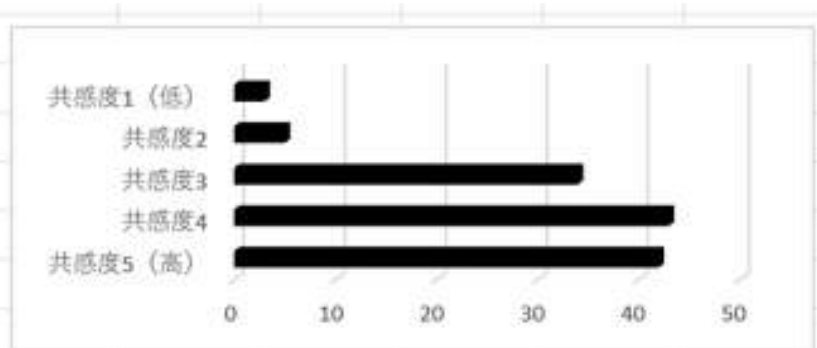
	回答数	分布率
共感度1 (低)	0	0.00%
共感度2	9	7.09%
共感度3	47	37.01%
共感度4	48	37.80%
共感度5 (高)	23	18.11%
合計	127	100%



Q：聴力の弱さをカバーして周囲の方とのコミュニケーションをサポートしてくれる機能

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	3	2.36%
共感度2	5	3.94%
共感度3	34	26.77%
共感度4	43	33.86%
共感度5 (高)	42	33.07%
合計	127	100%



#### ■聴力が弱い方とのコミュニケーションでのヒヤリハット・困りごと事例

- 大きな声を出すため周囲の方が怒る、迷惑。
- 周囲の方の怒り等に気づけない。
- 意向が伝わらず、不安・不満・不信感につながる。
- 集団でいると孤独感を感じさせてしまう。
- 恥ずかしいことをお聞きするにも大きな声となってしまうため、羞恥心や自尊心を傷つけてしまう可能性が高い。
- ナースコールで会話が成り立たないため、コールが鳴れば必ず訪室しなければならない。頻回に鳴ると業務を圧迫する。
- 耳元で大きな声で話さなければ伝わらない(近くに行かなければならない)。
- 大きな声で話すため、個人情報が出てしまうリスクが高まる。
- 危険時に遠くから声がけができない。
- 認知症が強い等で筆談ができない場合がある。

## ■聴力が弱い方とのコミュニケーションでの工夫、取組み、欲しい機能

- 音声を自動で文章にしてくれるウェアラブル端末。
- UDトークのようなアプリで、ネットを経由せずに音声変換できるよい。
- 職員が話した事をゆっくり・大きく・低い音で再生してくれる。
- 骨伝導の聴力補助器具、車椅子。
- 補聴器や集音器などは他の音も増大させてしまうので、耳元でお話した内容のみ聞き取りやすくする機能が欲しい。1対1で伝えられる機能。
- 難聴度合いによって聞こえる音量が各個人で変わるような拡声器。
- 笑顔、手振り、身振り、ボディランゲージ(ノンバーバルコミュニケーション技法)。
- 表情、トーン、声色から感情を判別できるシステム。
- 見ることで意思が伝達できる機械。
- メモで大きく書いて伝える(筆談)。
- 字幕機能(話している内容をすぐに文字起こしして見れる機能)。
- 振動を利用したアラーム機能。

## 利用者様への声掛けにおける困りごと・負担箇所

### ポイント4

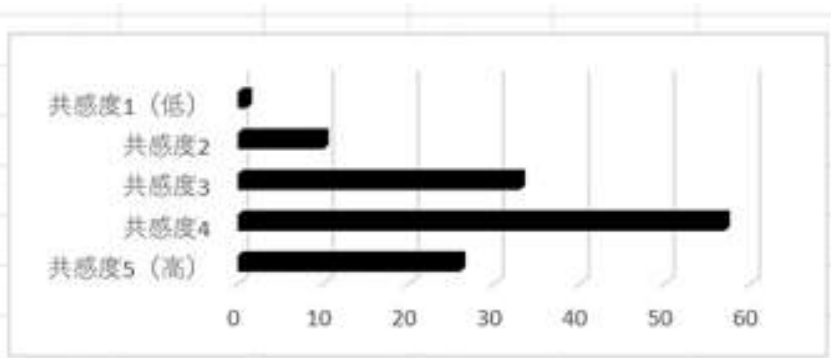
### 失語症等の対応

## ■該当アンケート調査結果

Q :失語症などで意思表示ができない方にアプローチすること。

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	1	0.79%
共感度2	10	7.87%
共感度3	33	25.98%
共感度4	57	44.88%
共感度5 (高)	26	20.47%
合計	127	100%



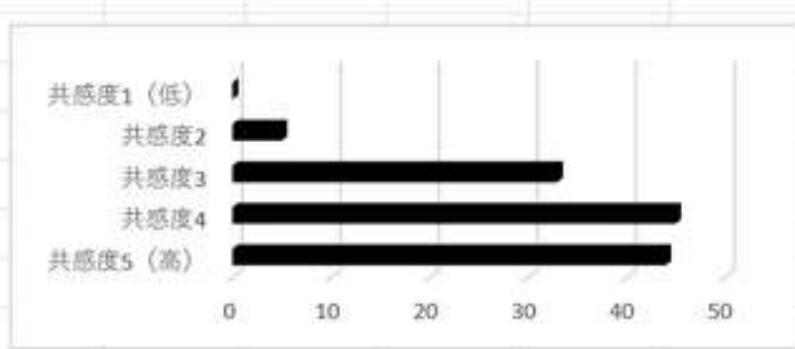
## 【前頁からの続き】

### ■該当アンケート調査結果

Q :失語症の方の意思表示を文章等により円滑にしてくれる機能。

【集計・分布】

	回答数	分布率
共感度1 (低)	0	0.00%
共感度2	5	3.94%
共感度3	33	25.98%
共感度4	45	35.43%
共感度5 (高)	44	34.65%
合計	127	100%



### ■失語症等の方とのコミュニケーションでのヒヤリハット・困りごと事例

- 意思疎通困難による気持ちのすれ違い。
- 失語症の方の訴えが職員に届かない。
- 利用者の思いや言いたいことが汲み取れず何度も質問してしまう。
- 職員側が理解した内容に相違があり、違う対応をしてしまう。
- 意向を理解してあげられない、そもそも伝えたいことが理解できない。
- 細かな部分の訴えが分からない。
- 言いたい言葉が出ず、泣き出してしまう。
- 話したい内容が汲み取れずに何度も確認してしまうことでイライラさせてしまった。または伝えようとする気持ちを阻害してしまう。
- 時間の都合でゆっくり最後まで話を聞くことができない。

### ■失語症の方とのコミュニケーションでの工夫、取組み、欲しい機能

- タッチパネル式のコミュニケーションボードがあると良い(50音式ではなくトイレ・食事等イラスト式のもの)。
- 本人が言いたいことを画面上に候補として挙げてくれ、本人が「これ」と選択できる機能。
- イラストや写真を表示して指さしてもらう機能。
- 困っている、伝えたいことを表情で認識し、その内容を絵や言葉に変換して伝わるような機能(または、はい・いいえを選べる機能など)。
- タッチパネル式で日常会話が選択でき、ある程度のコミュニケーションが可能になる機能。更にAIによる個人別の日常生活の会話が記憶されてスムーズにできるようなシステムが搭載されている

【前頁からの続き】

## ■失語症の方とのコミュニケーションでの工夫、取組み、欲しい機能

- 生活習慣におけるパターンからアンサーを見出すようなお声がけ。
- 本人の筆談がナースコールで機械音声として職員に伝わる機能。
- 能力に応じたタブレットアプリ。
- 会話トレーニングの相手になってくれる機能。

### 利用者様への声掛けにおける困りごと・負担箇所

#### 介護ロボットを開発する皆さまへ現場からのメッセージ

#### 「温もり・安心感のある、人に寄り添うロボット」

- ・認知症による不安感が大きくなることで、問題行動(帰宅願望・入浴拒否・徘徊等)が出やすくなります。
- ・認知症を患っている方すべてが問題行動を起こすわけではなく個人差があります。
- ・明るくて大らか、穏やかな重度認知症の方も施設には入所されています。
- ・問題行動を起こしてしまう方は、まず表情に変化があります。そして行動に変化が出てきます。心の変化が顔の相に現れ、行動に現れてきます。
- ・介護現場では、そうした方々に安心感を与えることで行動を抑えています。職員の代わりにロボットが行う場合、心の変化を察知できる機能と、安心感を与えられる機能が必要だと思います。
- ・職員不足が深刻になり、必要最低限の介護業務も少人数の職員で回しているのが実態です。利用者様とじっくり向き合う時間が、以前より減少してきて業務に忙殺される日々となっています。職員の負担が軽減し、利用者に関わる時間が増えるような業務の改善につながる介護ロボットを必要としています。現場の職員はご家族から利用者様の身体・生活上の介護を任されているので、しっかりとその責務を果たすためにも現場業務のサポート的な役割を行ってくれるロボットを求めています。
- ・受容・共感・笑顔。ロボットさんが寄り添ってくると嬉しいです。
- ・利用者の強みに着目して、また、介護者の気持ちを取り入れた製品の開発を期待します。

【前頁からの続き】

利用者様への声掛けにおける困りごと・負担箇所

介護ロボットを開発する皆さまへ現場からのメッセージ

「温もり・安心感のある、人に寄り添うロボット」

- ・どんな職員も簡単に扱えることが機器導入においては重要です。
- ・さまざまな疾患を患われているご利用者とのコミュニケーションはとても重要なことである一方、限られた職員体制で十分に行うことができていないのが現状です。機器の導入はご利用者、職員双方にとって十分な役割が期待できると感じています。

業務の重要性	<ul style="list-style-type: none"><li>・帰宅願望のある利用者は、自宅に帰れば安心するかもしれませんが、在宅では諸事情(家族の介護困難・精神的負担・介護者不在・虐待)があり、単純に帰宅させるわけにはいきません。入浴も清潔を保つためには必要です。相手との円滑な意思疎通がなければ信頼関係は築けず介護は困難です。</li><li>・認知症や難聴、失語症のご利用者とのコミュニケーションが必要な支援を円滑に行い、その人らしい生活を守っていくことになるコミュニケーションは最も重要な部分を占める。</li></ul>
業務の危険性	<ul style="list-style-type: none"><li>・不安による徘徊から転倒につながる。</li><li>・職員の価値観を利用者に押しついたり、良かれと思った行動が利用者に危険を及ぼすこともあり、一人一人の個性や特性を理解しなければ事故に繋がる。</li><li>・不穏になった利用者からの暴力、身体介護を繰り返すことでの身体的・精神的疲労があります。意思疎通が困難な方とのすれ違いで2年間ほど特定の利用者から介護拒否・暴言を受けることがありました。</li><li>・認知症による帰宅願望や徘徊、入浴拒否に関しては、誤った対応により転倒や粗暴行為のリスクが高まります。また、ご利用者の尊厳を奪い、ストレス増加による症状の悪化も懸念される。</li></ul>

【前頁からの続き】

<p>業務の危険性 (続き)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴力が弱い方、失語症の方に対しては、十分なコミュニケーションが取れないことから孤独感や生きる活力を失わせるリスクが高く、自尊心の喪失が懸念される。※その人らしい生活が失われてしまう可能性も高い。</li> </ul>
<p>業務中のヒヤリハット・ 困りごと (抜粋・再掲)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・徘徊時につまづいて転倒してしまう。</li> <li>・玄関先に止まっている車両を見ると玄関に向かって急いで向かっていかれる。</li> <li>・他利用者もつられて「私も入らない」と同調してしまう</li> <li>・危険時に遠くから声がけができない。</li> <li>・説得に時間を要する。時間が取られて他が手薄になる。</li> </ul>
<p>職員が確認および意識 しているポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者の言葉から寄り添う気持ちが大事。</li> <li>・日々利用者の言動・行動・態度を観察し利用者の尊厳を守りながら声掛けを行っている。</li> <li>・表情や気持ちを職員がしっかりと読み取りながら業務にあたっている。</li> <li>・不安を少しでも軽減して頂く。</li> <li>・認知症になってしまった高齢者でも尊敬する方々ばかりです。敬意を持って接する。</li> <li>・利用者の体調は日々変化しているため、朝の様子からいつもと異なることがあれば、職員同士で情報交換し共有することが重要。</li> <li>・利用者の様子(表情から顔の色、姿勢、目線)や生活状況も観察して利用者の心身を把握しています。</li> <li>・表情や仕草を細かく確認します。認知症の方であれば何かしたいことがあるのにそれを表現できないため、違う形で表現していることも多い。</li> <li>・非言語的な表現で何かを伝えようとしていることも多いため、見逃さないように注意する。</li> </ul>

【前頁からの続き】

<p>負担軽減をはかるための工夫や取組み・期待する機能及び使い方 (抜粋・再掲)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・職員が付き添い、話をしながら散歩をする。</li><li>・違う話題でコミュニケーションを取りながら気を紛らす。</li><li>・衣服を脱がずに足浴から勧める。</li><li>・カーテンで仕切り、羞恥心を除去</li><li>・笑顔、手振り、身振り、ボディランゲージ (ノンバーバルコミュニケーション技法)</li><li>・状況に応じて利用者の好きな曲、画像、話題を提供する機能</li><li>・補聴器や集音器などは他の音も増大させてしまうので、耳元でお話した内容のみ聞き取りやすくする機能が欲しい。1対1で伝えられる機能</li></ul>
--	--



## 本調査研究のまとめと課題・今後に向けて

当プロジェクトチームによる「介護ロボットを活用した調査研究プロジェクト」の事業報告書を最後までご覧いただきまして、ありがとうございました。

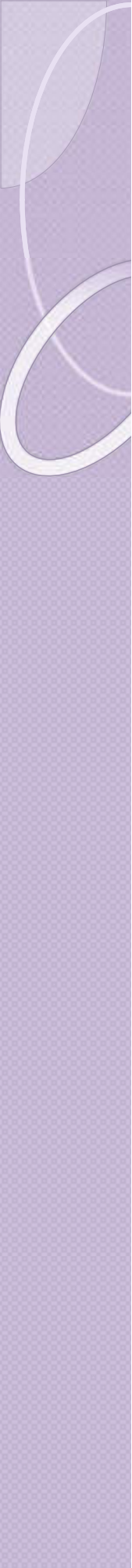
我が国においては急速な高齢化に伴う要介護者の増加、それに労働力不足も加わり大きな課題となっています。我々の施設において、それらを解決するためには生産性の向上が必要不可欠で、介護ロボットの活用に大きな期待が寄せられています。

令和3年度からの2か年における調査研究において、我々施設や事業所がロボットの開発に関わることにより、より現場に受け入れられる介護ロボットが普及していく可能性をお示しいたしました。そして令和4年度からの本研究においては「現場での困りごと」に紐づく「介護ロボットに期待する機能」に焦点をあて活動して参りました。これらの研究の成果を会員施設様や行政機関、またロボットの開発に携わる皆様にお示しをし、会員施設さまの効果的な施設運営と、現場に受け入れられる介護ロボットの普及や開発にお役立ていただければ幸いです。

最後に、本研究に携わったすべての関係者の皆さまに御礼を申し上げ、私たちの調査研究が介護ロボットの導入に向けた重要な一歩となることを願っております。

令和6年3月

介護ロボット等を活用した調査研究プロジェクト  
委員長 戸嶋 靖浩



令和6年3月  
一般社団法人埼玉県老人福祉施設協議会  
〒埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65  
彩の国すこやかプラザ内  
電話 048-762-3934 / FAX 048-762-3964